

# 須崎道路（吾井郷地区） 埋蔵文化財確認調査報告書

1996年2月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 須崎道路（吾井郷地区） 埋蔵文化財確認調査報告書

(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター



## 序

須崎市は高知県の中央部、須崎湾に面して新莊川の河口に発達した港を中心とした市です。須崎湾はリアス式海岸によって形成された海岸線に深く入り込んだ湾であり、高知県随一の良港として重要な位置を占めています。また、産業面では石灰岩を素材としたセメントなどの工業が発達しており、高知市と並ぶ産業都市として発展してきました。

この須崎市の歴史上における姿は明確ではありませんが、中世においては新莊川の中流域である葉山村の姫野々城跡を居城とする津野氏の支配する湊町としての須崎の存在を知ることができます。さらに遡れば、銅剣（波介遺跡）や銅鉾（飛田坂本遺跡）も出土するなど、弥生時代の遺跡も数多くみられ、古くから開かれた地域でした。

さて、今回の確認調査は建設省所管の須崎道路建設に伴う調査でした。須崎道路は、県土の交通網整備の一環として四国横断自動車道伊野～須崎間に接続する国道56号線のバイパス機能を有する道路であり、現国道のルートからは離れています。

新たな須崎道路のルート周辺には、先に述べた銅鉾の出土地である飛田坂本遺跡や中世城跡である畦田城跡、また上流部には弥生時代の弘岡乙丸遺跡、山添遺跡などが所在しており、桜川の流域は原始・古代より生活の場として利用されていたものです。このような遺跡の立地状況からみて、須崎道路建設対象地には埋蔵文化財が存在する可能性があるため、事前の確認調査を行うこととなりました。

確認調査の実施にあたっては、建設省四国地方建設局土佐国道工事事務所の御理解と御協力を頂き、また、高知県教育委員会及び須崎市教育委員会、さらには地元の方々の御協力を頂くことにより、順調に調査を進めることができました。御協力を頂いた皆様に感謝するとともに、確認調査の結果が今後の埋蔵文化財の保護に生かせれば幸いです。

1996年 2 月

財団法人高知県文化財団

埋蔵文化財センター

所 長 原 雅 彦



## 例 言

1. 本報告書は須崎道路建設に伴う埋蔵文化財確認調査の報告書である。
2. 調査は建設省四国地方建設局土佐国道工事事務所の委託を受け、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査対象地は須崎市吾井郷地区の須崎道路建設工事範囲の内、建設省工事部分である。
4. 須崎道路は国道56号線改良工事であるとともに、日本道路公団が建設中の四国横断自動車道伊野～須崎に接続し、完成後は高速道として共用される予定であり、計画範囲内には道路公団用地が存在する。
5. 調査はＪＲ四国の土讃線との交差部分の工事が先行するために、現国道56号線とＪＲ四国土讃線との間をⅠ区、ＪＲ四国土讃線以南をⅡ区として、２区に分けて実施した。
6. 調査期間はⅠ区が平成７年５月22日～６月２日、Ⅱ区が平成７年11月９日～11月30日であった。
7. 調査面積はⅠ区－230㎡、Ⅱ区－592㎡の合計822㎡である。
8. 調査は埋蔵文化財センター調査第２係長森田尚宏・専門調査員田坂京子が担当した。報告書の執筆はⅡ章を田坂、それ以外を森田が分担し、編集は森田が行った。
9. 出土遺物の実測図は縮尺1/4としたが、木製品の中で19・20～23・51・54～58・74・76・77・79・90については1/6とした。また写真の縮尺は不同である。
10. 出土遺物等の資料は高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。また木製品の一部は保存処理を行った。
11. 調査にあたっては、土佐国道工事事務所、高知県教育委員会、須崎市教育委員会、地元吾井郷地区の方々にご協力を頂いた。記して感謝する次第である。
12. 須崎道路確認調査の調査略号は95-4 S Dであり、遺物の注記も同様である。

## 本文目次

|                   |   |
|-------------------|---|
| I 調査の経緯と経過 .....  | 1 |
| II 位置と歴史的環境 ..... | 2 |
| 1. 位置 .....       | 2 |
| 2. 歴史的環境 .....    | 2 |
| III 調査内容 .....    | 4 |
| 1. 調査の方法 .....    | 4 |
| 2. I 区の調査 .....   | 7 |
| 3. II 区の調査 .....  | 8 |
| IV まとめ .....      | 9 |

## 挿図目次

|                     |                                                 |
|---------------------|-------------------------------------------------|
| Fig. 1 調査地位置図       | Fig. 10 G43～52セクション図                            |
| Fig. 2 周辺遺跡分布図      | Fig. 11 G53・54セクション図                            |
| Fig. 3 調査対象地範囲図     | Fig. 12 G7・9・19・21・28・29・38・<br>43・44・46・49出土遺物 |
| Fig. 4 試掘グリッド位置図    | Fig. 13 G9・19・21・22出土遺物                         |
| Fig. 5 G9平面図        | Fig. 14 G22・27出土遺物                              |
| Fig. 6 G1～10セクション図  | Fig. 15 G27出土遺物                                 |
| Fig. 7 G11～20セクション図 | Fig. 16 G27・28・34・51出土遺物                        |
| Fig. 8 G21～30セクション図 |                                                 |
| Fig. 9 G31～42セクション図 |                                                 |

## 表目次

|                   |
|-------------------|
| Tab. 1 遺物出土グリッド表  |
| Tab. 2 出土遺物計測表1～3 |



## 写真図版目次

|        |           |           |           |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| PL. 1  | 調査区（Ⅰ区）全景 | 調査区（Ⅱ区）全景 | 調査状況（G 9） |
| PL. 2  | G 1       | G 2       | G 3       |
| PL. 3  | G 4       | G 5       | G 6       |
| PL. 4  | G 7       | G 8       | G 9       |
| PL. 5  | G 9 セクション | G 9 杭出土状態 | G 9 杭出土状態 |
| PL. 6  | G 9 鋤状木製品 | G 9 土師器   | G 9 土師器   |
| PL. 7  | G10       | G11       | G12       |
| PL. 8  | G13       | G14       | G15       |
| PL. 9  | G16       | G17       | G18       |
| PL. 10 | G19       | G20       | G21       |
| PL. 11 | G22       | G23       | G24       |
| PL. 12 | G25       | G26       | G27       |
| PL. 13 | G28       | G29       | G30       |
| PL. 14 | G31       | G32       | G33       |
| PL. 15 | G34       | G35       | G36       |
| PL. 16 | G37       | G38       | G39       |
| PL. 17 | G40       | G41       | G42       |
| PL. 18 | G43       | G44       | G45       |
| PL. 19 | G46       | G47       | G48       |
| PL. 20 | G49       | G50       | G51       |
| PL. 21 | G52       | G53       | G54       |
| PL. 22 | 出土遺物 1    |           |           |
| PL. 23 | 出土遺物 2    |           |           |
| PL. 24 | 出土遺物 3    |           |           |



## I 調査の経緯と経過

国道56号線は高知市と愛媛県松山市を結ぶ四国西部の幹線国道であり、四国を巡る大動脈となっている。県内では高知市を起点とし、須崎市等を通り、土佐の小京都と呼ばれる中村市そして宿毛市を通過し、愛媛県へと続いている。県西部の生活、産業に密着した国道であり、交通量も年々増加の一途である。特に高知市への通勤範囲である春野町、土佐市高岡と須崎市、そして中村市と宿毛市を中心とする範囲では、朝夕の通勤ラッシュによる渋滞が慢性化しており、根本的な解決策が望まれていた。このような状態を受けて建設省では、日本道路公団による四国横断自動車道の須崎までの建設とも合わせ、春野バイパス・土佐市バイパス・須崎道路・中村宿毛道路等の道路改良、バイパス建設、高規格道路の新設等の事業が計画され、順次着手されてきた。須崎道路も高規格道路として計画され、高速道路の終点である須崎市吾桑から市街地を抜け、新莊川に至るルートが決定された。平成5年度には地元協議も調い、事業が実施されることとなった。

須崎道路計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地は存在していなかったが、周辺部に遺跡の所在が確認されており、建設省と県教育委員会の協議の結果、計画地内の事前の確認調査を実施することとなった。これを受けて平成5年度には須崎市西部の池の内地区の確認調査が行われ、平成7年度には須崎市東部の吾井郷地区の確認調査が実施されることとなった。吾井郷地区の路線計画は、国道56号線と高速道路の終点であるインターチェンジとを結び市街地へ延びるルートであり、桜川からJR土讃線に添った範囲が調査対象とされた。



Fig. 1 調査地位置図

## Ⅱ 位置と歴史的環境

### 1. 位置

須崎市は、土佐湾のほぼ中央に位置し、行政区画では高岡郡に属している。東から東北は土佐市、北は佐川町、西は葉山村、大野見村、南西は中土佐町と境を接している。この地域は水系を中心にみていくと、今日の須崎市、葉山村を潤す新莊川がその中心になる。他に須崎平野東部を潤す桜川、久礼平野を流れる久礼川、長沢川、元川の三小河川があり、新莊川流域平野の西にある標高461メートルの布施ヶ坂峠を越えると、四国山地の高原の村、東津野村と四国山地に抱かれた山間の町、梶原町に至る。ＪＲ土讃本線は高岡郡佐川町を経て市域に入るとほぼ国道56号と平行して走り、中村市へと続いている。また、愛媛県宇和島市へ通ずる梶原街道の起点でもあり、県西部と四国山地の山間部とを結ぶ交通の要所となっている。

この須崎市を地理的にみれば、東経133° 18' 40"、北緯33° 25' 20" に位置し、平野部は少ないながら、須崎湾、野見湾、浦ノ内湾が湾入する県中西部のリアス式海岸に沿って、横波三里と呼ばれる景勝の地をなしている。

今回、調査の対象となった吾井郷地区は桜川の下流に面し、周囲を山に囲まれているが、標高も低く、以前は低湿地地帯であったものと考えられる。現在は耕地となり、山沿いに集落が続く景観である。

### 2. 歴史的環境

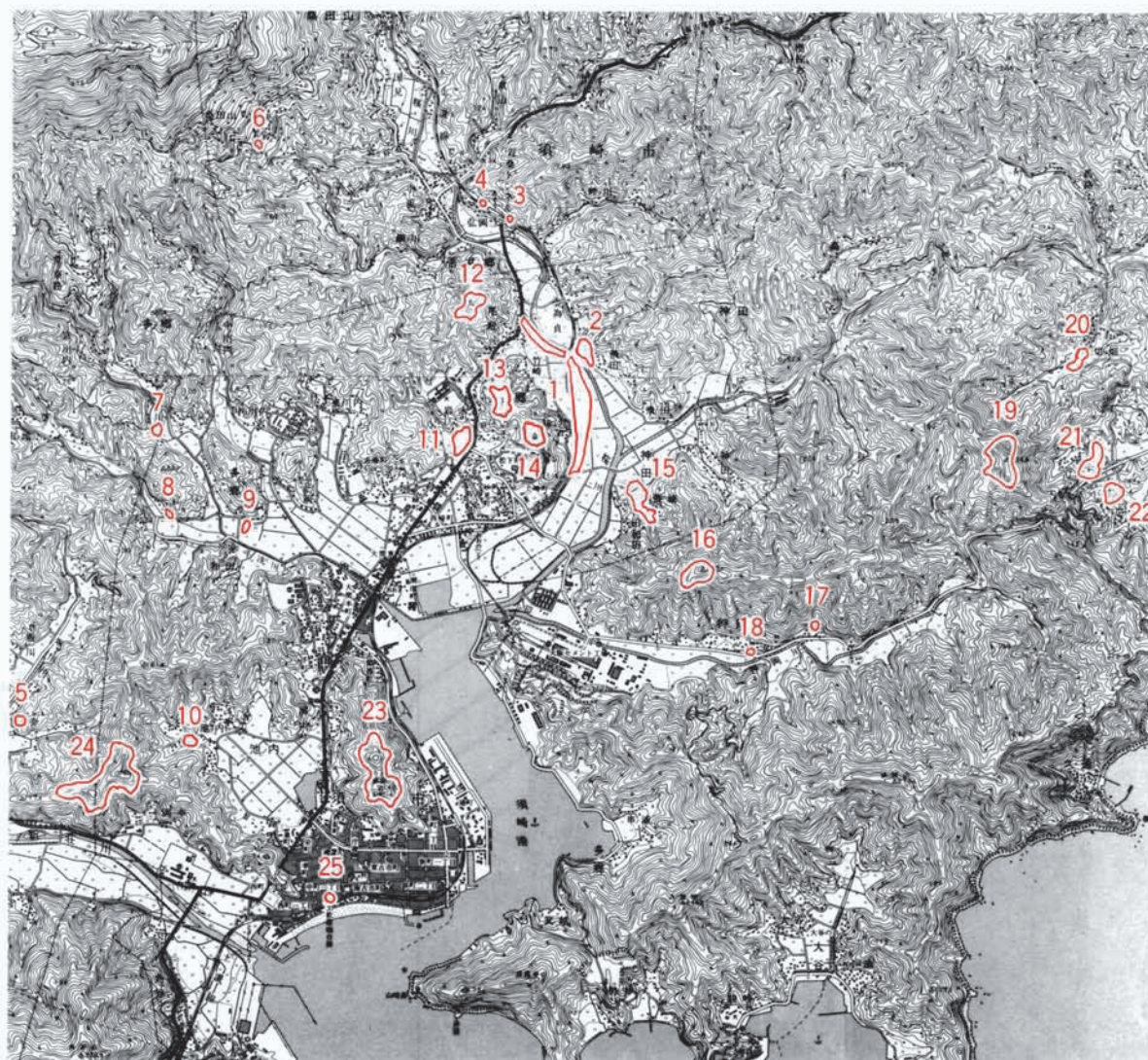
高知県は、大半が山国であり、平野部は各河川の河口付近に存在するにすぎない。しかも東西に長く、南を太平洋、北を四国山脈に阻まれ、隔絶されているため、河川流域ごとにそのもつ地域文化が異なるという特徴を持っている。須崎市は、新莊川流域水系の文化圏に属するが、この地域は大きくわけて、須崎湾に面する海岸平野とその北に続く四万十川上流の山間地域の二つの地域からなっている。両者の間には布施ヶ坂峠があり、全く水系を異にするが、縄文時代の遺跡の分布で一つのつながりを示し、平安時代末以降においても津野荘と呼ばれる荘園で収まる地域であり、歴史的には一つに纏まる文化地域である。現在、須崎市には48箇所の遺跡（縄文2、弥生10、古墳3、古代2、中世30、近世1）が確認されており、縄文時代から近世までの各時代にわたっている。中でも弥生時代の遺跡は新莊川下流域と桜川流域に集中しており、新莊川流域の波介遺跡からは銅剣3本、桜川流域の飛田坂本遺跡では銅鉾2本、山添遺跡では銅剣形石剣1本が出土している。また、この地域の古社には銅剣を宝物としている神社があり、須崎市多ノ郷賀茂神社に銅剣1本、葉山村三島神社に銅剣2本、すぐ近くの白雲神社に銅剣1本が伝わっている。このように7本の銅剣と2本の銅鉾、1本の石剣が須崎湾沿岸と新莊川流域に集中して分布しており、この地域は県内の青銅器分布地域の一つの中心地帯となっている。古墳時代の遺跡では、浦ノ内湾口に灰方古墳群と呼ばれる2基の古墳が存在していた。

津野庄は元来、京都下鴨神社の荘園として始まったが、南北朝時代頃より次第に津野氏により侵略され、応安五年（1372）には実質上津野氏の支配下に入った。津野氏は戦国時代には土佐七守護の一つとして勢力を拡大し、半山（現葉山）の姫野々に本城を構えたが、その後天正の末頃、津野

親忠が本城を姫野々から須崎の城山に移し南麓に城下町を造ったと伝えられ、津野庄および山間部の物資積出地として栄えた。中世の遺跡としては、7箇所の城館跡（岡本城、須崎城、石木戸城、針木城、札付城、神崎城、中平城、畦田城）が確認されている。

その後、慶長六年の山内一豊の入国以降、近世村落の編成に伴い須崎村以下十三ヶ村が成立し、街道要所の須崎村には送番所が設けられた。また津野の地名はその原拠地である吾井郷津野村の消滅以後、近世になって山間部の津野山郷（現梶原町、東津野村）として残った。須崎市の近世遺跡としては、土佐藩砲台跡が国の史跡として指定されている。

現代になってからは、昭和29年に須崎町、上分村、吾桑村、多ノ郷村、浦ノ内村が合併して須崎市となり高岡郡から分離し、交通の要所として栄え、高知市に次ぐ人口を擁している。



| No | 遺 跡 名  | No | 遺 跡 名  | No | 遺 跡 名 | No | 遺 跡 名     | No | 遺 跡 名      |
|----|--------|----|--------|----|-------|----|-----------|----|------------|
| 1  | 調査対象地  | 6  | 西ノクボ遺跡 | 11 | 岩永遺跡  | 16 | 針木城跡      | 21 | 土居遺跡       |
| 2  | 飛田坂本遺跡 | 7  | 南ノ沖遺跡  | 12 | 畦田城跡  | 17 | 土居ノ谷遺跡    | 22 | トギヤ遺跡      |
| 3  | 山添遺跡   | 8  | 行正遺跡   | 13 | 石木戸城跡 | 18 | 久保ノ前遺跡    | 23 | 須崎城跡       |
| 4  | 弘岡乙丸遺跡 | 9  | 竹ノ鼻遺跡  | 14 | 菊ノ森城跡 | 19 | 札付城（奥浦城）跡 | 24 | 岡本城（巢の森城）跡 |
| 5  | 波介遺跡   | 10 | 陰畑遺跡   | 15 | 張城遺跡  | 20 | 切畑遺跡      | 25 | 土佐藩砲台跡     |

Fig. 2 周辺遺跡分布図



### Ⅲ 調査内容

#### 1. 調査の方法

須崎道路建設予定地の中で今回、確認調査の対象となったのは吾井郷地区である。吾井郷地区は、須崎市街地から大間、多ノ郷を経て東側約4 kmの地点であり、現在もＪＲ土讃線が桜川沿いに通るなど、古くから佐川町を通じて仁淀川流域との流通ルートの一部である。須崎道路は、国道56号線から分岐して桜川に沿って南下し、ＪＲ土讃線と交差した地点で高速道路とのインターチェンジに合流する。インターチェンジからは、須崎市街を高架及びトンネルで抜け、新莊川に至る計画である。調査は路線計画の中で、国道分岐から県道浦ノ内線までの間が最も遺跡の所在する可能性が高いと考えられたので、この区間を対象として開始された。調査の実施にあたっては、建設省との協議の結果、国道分岐～ＪＲ土讃線交差間が工事用道路建設のために早急な対応が必要となったため、まずこの区間をⅠ区として1次調査が開始された。また、ＪＲ土讃線交差から県道浦ノ内線の間はⅡ区として2次調査を行うこととなった。

調査の方法は、調査対象地について現地の状況に応じた任意の位置にグリッドを設定し、試掘調査を行った。試掘グリッドは基本的に4 mグリッドとし、重機及び人力で掘り下げ、遺構、遺物の検出に努めた。また、重機が入れない部分については2 mグリッドとして、人力により掘り下げを行った。Ⅰ区は平成7年5月22日～6月2日の間に調査面積230㎡、G1～G17の17グリッドの調査が行われ、Ⅱ区については平成7年11月9日～11月30日の間に調査面積592㎡、G18～G54の37グリッドの調査が行われた。調査面積は合計822㎡である。



Fig. 3 調査対象地範囲図 S=1/10,000

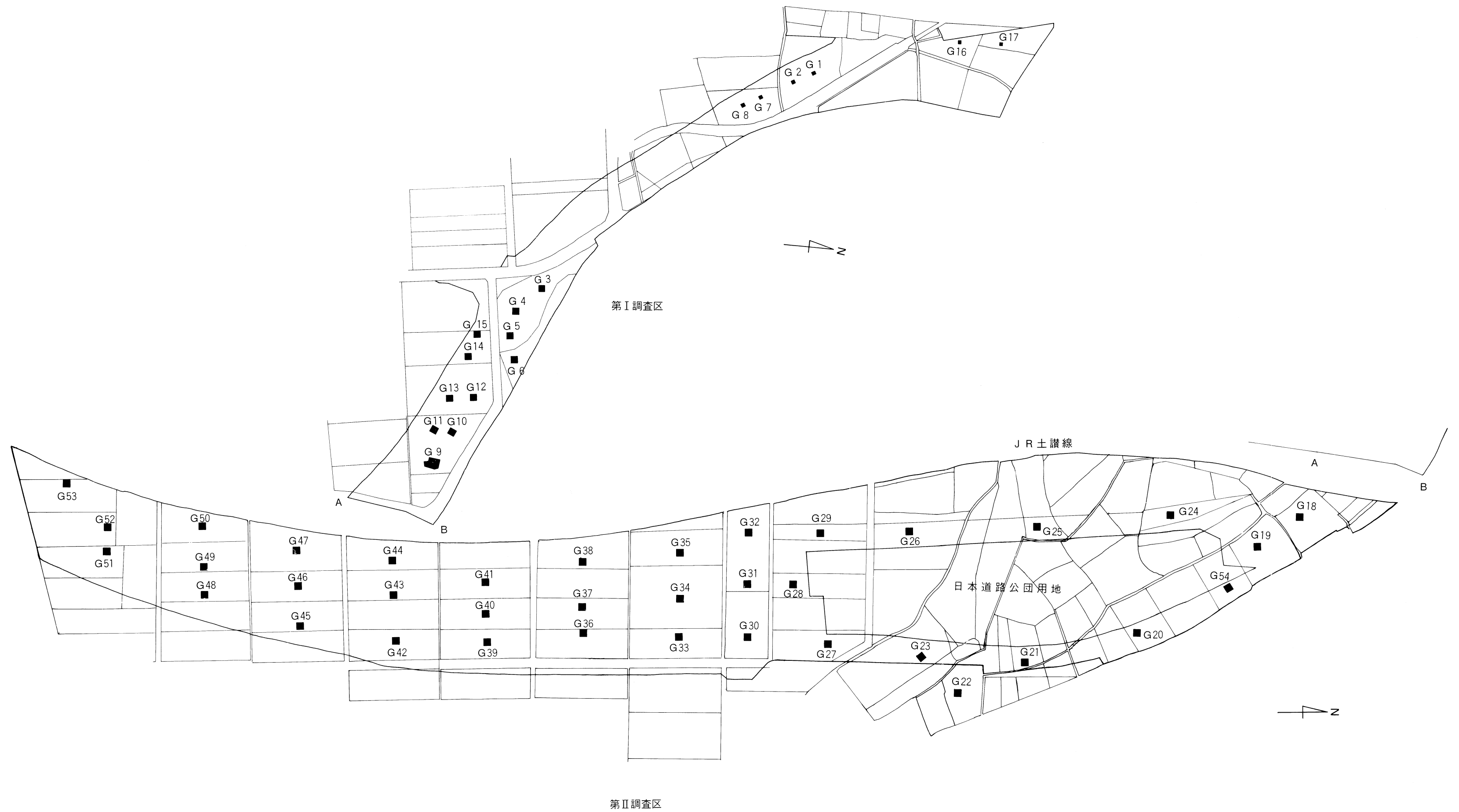


Fig. 4 試掘グリッド位置図 (S=1/2,000)





## 2. I 区の調査

I 区のグリッドはG 1 からG 17であるが、未買収地及び現地の作物等の関係から国道分岐部分と南半分のJ R土讃線の交差部分を中心にグリッドを設定した。グリッドの中でG 1・2・7・8・16・17は重機が入らなかったため2 mグリッドとし、人力により掘り下げを行った。各グリッドの調査状況を次に述べる。

17箇所のグリッドの中で遺物を出土したグリッドはG 1・2・7・8・9・10の6グリッドであるが、遺構はいずれのグリッドにおいても検出されなかった。各グリッドの遺物出土及び層位については、Tab. 1のとおりであるが、国道分岐部分（G 1・2・7・8）とJ R土讃線の北西部分（G 9・10）において遺物の出土が確認されている。G 1ではV・VI層から29点の遺物が出土しているが、土師質土器18点・瓦質土器2点・青磁・白磁各1点と中世が中心であり、須恵器7点が混入している。土器はいずれも細片であり、やや摩耗していることから、桜川の上流域からの流れ込みと考えられる。なおⅦ層には炭化物の細片が含まれていた。G 2においてもⅥ層より土師質土器11点・青磁1点が出土しているが、やはり流れ込みの堆積である。土師質土器の中には回転糸切りの底部がみられ、杯の破片である。G 7・8ではⅣ層から土師質土器6点・瓦質土器1点・須恵器1点が出土しているが、G 1・2に比べ量的には少なく国道よりに遺物分布の中心があるものと考えられる。G 9では、地表下約1.5mまでは粘土層及び砂利層の無遺物層（Ⅰ～Ⅶ層）であるが、Ⅴ層中より1点ではあるが土師質土器が出土している。Ⅷ層下面では桜川の旧河川流路の一部と考えられる溝跡（SR-1）が検出された。SR-1 はほぼ南北方向であり、全幅2.8m、検出長7 mの規模が確認されている。断面はU字状であり、深さは中央部で約60cmと皿状に近い形状である。埋土は上層部から1層褐色砂利層、2層青褐色粘土層、

3層明青灰色砂利層、4層青灰色砂層、5層青灰色シルト層であり、基盤となる土層はⅨ層暗灰色粘土層である。SR-1の遺物出土状態をみると、埋土上層のⅦ層下部で2本の杭が検出され、さらにSR-1埋土2層から壁面にかけて7本の杭が出土している。埋土2層上部には木枝、木葉、柴等の薄い植物堆積層がみられ、鋤状未製品と加工木片も2層中から出土している。土器は2層下部から3層にかけて出土しており、SR-1の北壁付近に集中していた。さらに基盤層であるⅨ層の下層であるⅩ層褐色灰色粘土層からは、外面に条痕文がみられる縄文土器と思われる破片が1点出土している。SR-1からは36点の土器が出土しているが、すべて土師器であり大半が細片であった。土師器の中で図示できたのは3点であり、甕の口縁部である。3は緩やかに外反する口縁部であり、摩耗しているが外面にはハケ目、内

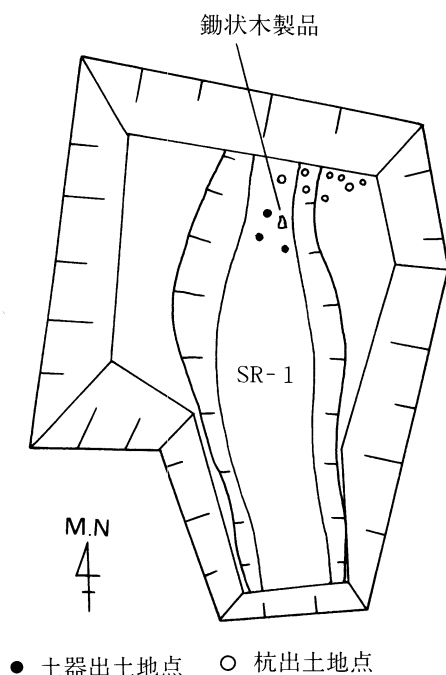


Fig. 5 G 9 平面図（S=1/125）

面にはナデの跡がみられる。4の口縁部は強く屈曲し、口縁は若干内傾する。外面には右上がりのタタキ目、内面口縁にはハケ目、体部にはナデ及び指頭圧痕がみられる。5の口縁部は頸部で外反気味に屈曲する。外面はハケ調整によりタタキ目を消すが、若干のタタキ目が残されている。以上の状況からみて、SR-1は古墳時代の自然流路と考えられ、出土遺物はやはり流れ込みの堆積である。しかしながら、流路中及び流路の肩部において杭列が検出されていることからすれば単なる自然流路への堆積ではなく、古墳時代における桜川下流域の生産活動の一端を示していると考えられる。

また、G9の北側のG10ではⅣ層より土師質土器片2点が出土している。

### 3. Ⅱ区の調査

Ⅱ区はJ R土讃線との交差部分から県道浦ノ内線の間であるが、J R土讃線交差部分の南側には四国横断自動車道の終点である須崎インターチェンジが計画されており、須崎道路はインターチェンジに接続し、さらに南下して須崎市街地を通過する予定である。インターチェンジの中央部は高速道路予定地として日本道路公団の用地となっており、建設省の須崎道路がその周囲を廻り、インターチェンジを介して高速道路とのアクセス道路となっている。今回のⅡ区の調査では、道路公団用地の周辺とJ R土讃線に添った須崎道路計画地が対象であり、G18からG54の37グリッドが調査された。Ⅱ区では重機による掘り下げ可能であったので、すべてのグリッドが4 mグリッドであった。

調査の中で遺構を検出したグリッドは存在しなかったが、G18以下19箇所のグリッド（Tab. 1参照）で遺物が出土している。各グリッドからの出土遺物は土師質土器が中心であり、層位的にはⅢ・Ⅴ・Ⅵ層から出土しているが細片であり、須恵質土器、土師器と混在して出土しているグリッドもあり、基本的には流れ込みによる堆積と考えられる。また、G22・27では杭列が検出されている。各グリッドの出土遺物をみると、G19では須恵器、土師質土器とともに塗椀が出土している。塗椀は底部の破片であり、見込みに朱漆による亀甲文が描かれるが、漆が断片的にしか残されていないので全体的な文様は不明である。G21では青磁の盤とみられる底部が出土しており、2次堆積ではあるが桜川流域の中世を知る良好な資料である。G22ではⅧ層から杭21本からなる杭列が検出されている。Ⅷ層は灰色粘土層であるが、共伴遺物は土師器の細片1点であり、時期的には古墳時代の可能性もあるが、明確ではない。G23では土師器がⅤ層から11点、Ⅷ層から2点とやや多く出土しているが、Ⅴ層では土師質土器1点も伴っている。G27ではⅢ層茶灰褐色粘土層から杭24本の杭列が検出されている。Ⅲ層からは土師質土器2点も出土しており、周囲のグリッドの状況からみても杭列は中世段階と考えられる。また、杭列ではないが、G34ではⅢ層灰色粘質土層から2本、G39ではⅣ層茶色粘土層から9本の杭が出土しており、共伴遺物はないが出土層位からみて、やはり中世以後の杭であろう。G51ではⅣ層茶灰色粘土層中から曲物の底板1点と杭2点が出土している。他のグリッドでは各々のグリッドの層位に違いがあるものの、Ⅲ・Ⅳ層を中心に土師質土器等中世の遺物が、Ⅴ～Ⅷ層では土師器、須恵器を出土していることから、古墳時代と中世の二時期の堆積を確認することができた。

## Ⅳ ま と め

今回の調査は須崎道路計画地における確認調査であったが、当初、計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地の存在は確認されていなかった。しかし調査の結果、Ⅰ区、Ⅱ区ともに遺物の出土が認められ、遺構は自然流路の検出のみであったが一応の成果をあげることができた。各グリッドにおける遺物出土状況についての詳細は遺物出土グリッド表（Tab. 1）、出土遺物については出土遺物計測表（Tab. 2）に記載したとおりであるが、全体的にみると桜川の下流域においては、分布密度は低いながらも遺物の散布が広範囲に広がっていることが判明した。遺物の時期としては、古墳時代と中世の二時期が確認されている。古墳時代では、G 9 の自然流路にみられるように土師器を中心とする古墳時代前期と、Ⅱ区の各グリッドでは散発的に土師器及び須恵器を出土しており、古墳時代全般に渡る時期が考えられる。中世の出土遺物は土師質土器の細片が中心であり、時期を確定する遺物は少ないが、G 21 出土の青磁からみると15世紀を中心とする時期を考えることができる。また、検出された杭列は、G 9 の自然流路である SR-1 を除いて時期的に不明な点も多いが、検出層位と周辺グリッドの層位及び出土遺物からみれば、中世段階以後の所産と考えられるものである。しかし、G 22 の杭列はⅧ層検出であることから SR-1 と同様に古墳時代の可能性が考えられる。

桜川の流域には、歴史的環境に述べたように小規模な遺跡が山裾部に断続的に立地しており、その周辺には中世山城跡が存在しているが、中流域から下流域にかけての平野部には見るべき遺跡の存在はなく、特に大間、多ノ郷を含めた下流域は、リアス式地形の沈降海岸である須崎湾に面した湿地帯であるところから、遺跡は存在しないと考えられてきた。事実上今回の調査対象地から河口にかけては標高 0 m に近く、地元の方の話でも戦前までは汽水域が広がる芦原の状況であり、遺跡の存在は望めない地域である。しかしながら、中流域から調査対象地にかけては桜川の氾濫源ではあるが、遺物の出土及び杭列の存在からすれば、古墳時代と中世における水田耕作等の生産の場であり、これに関係する集落等の存在が考えられる。周辺部において古墳時代の遺跡は存在していないが、隣接地の飛田坂本遺跡では銅鉾が 2 本出土したと伝えられている。時期的には弥生時代であり、今回の調査結果と直接的に結びつかないが、銅鉾を有する集団が弥生時代に桜川流域を根拠地として存在していたのであれば、引き続き古墳時代においてもこの地域を基盤とする集団が継続的に存在していた可能性は高く、またその集落は未発見ではあるが、山裾部から谷部にかけて立地しているものと考えられる。さらに、中世段階では桜川周辺の山頂部 4 箇所の中世山城跡が確認されており、その裾部には居館の存在も考えられ、これらの遺物の分布範囲として今回の調査対象地が含まれるものであろう。

以上のように時期的には古墳時代及び中世と断続しているが、桜川流域は仁淀川流域の佐川・越知盆地から斗賀野を通じて須崎湾へ至る最短ルートであり、同じく須崎湾に注ぐ新莊川と同様に山間部と太平洋岸を結ぶ交通路として古来より重要な位置を占めていたと考えられる。今回の調査結果もこのような地理的位置と歴史的環境を裏付けるものであり、さらなる調査が進めば当地域における弥生時代から中世にかけての歴史的発展が解明されるであろう。

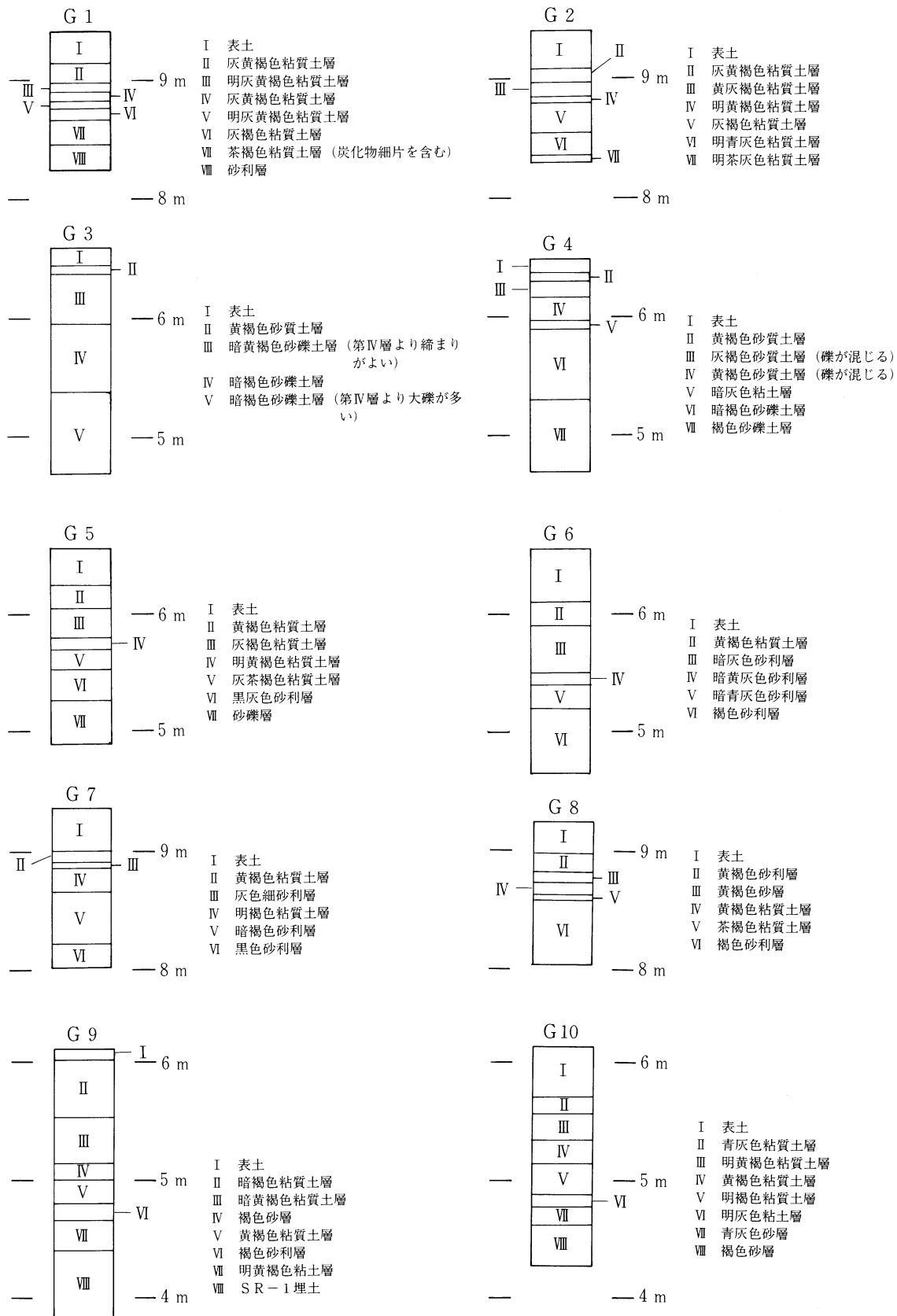


Fig. 6 G 1 ~10セクション図 (S=1/50)

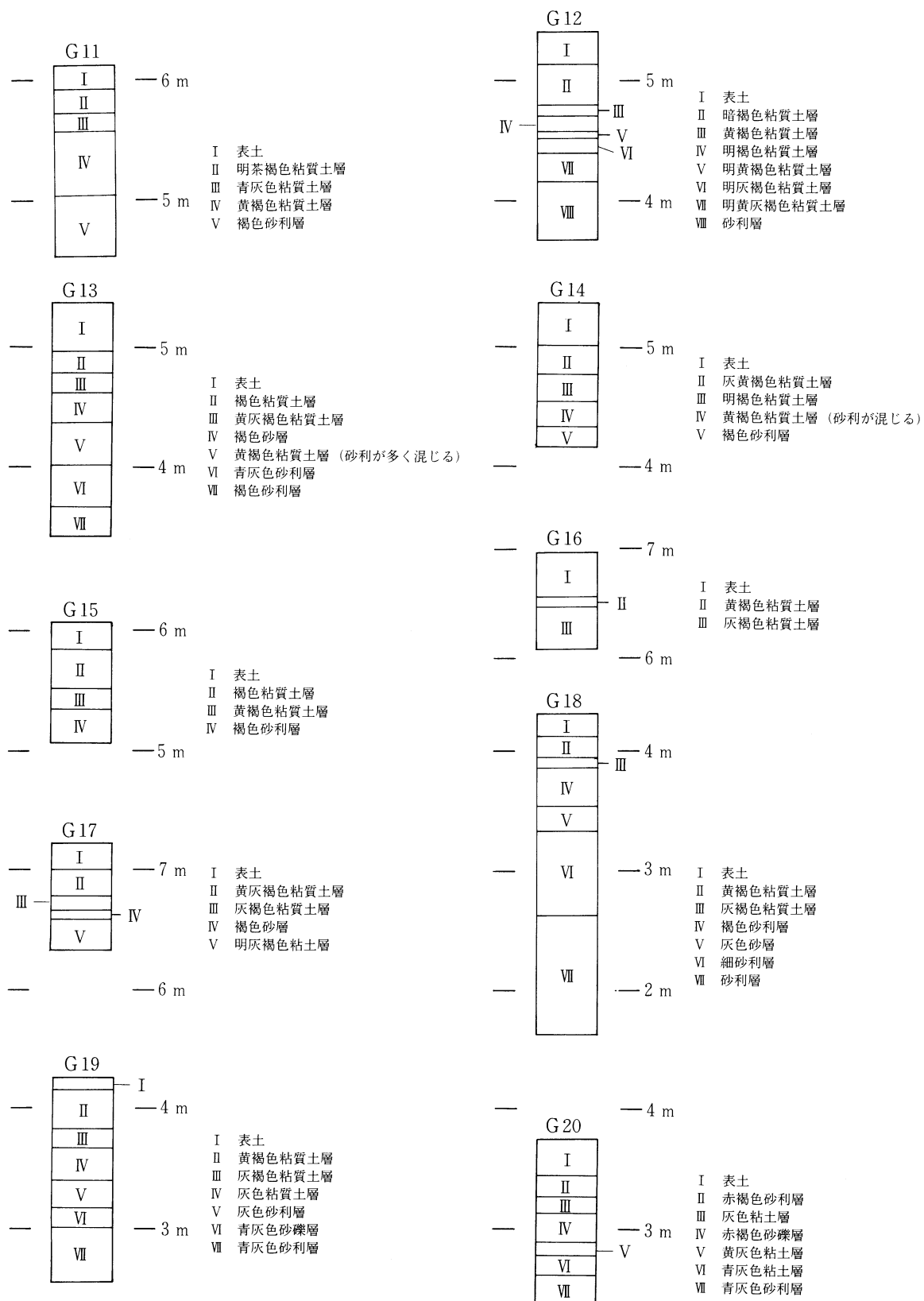


Fig. 7 G11~20セクション図 (S=1/50)

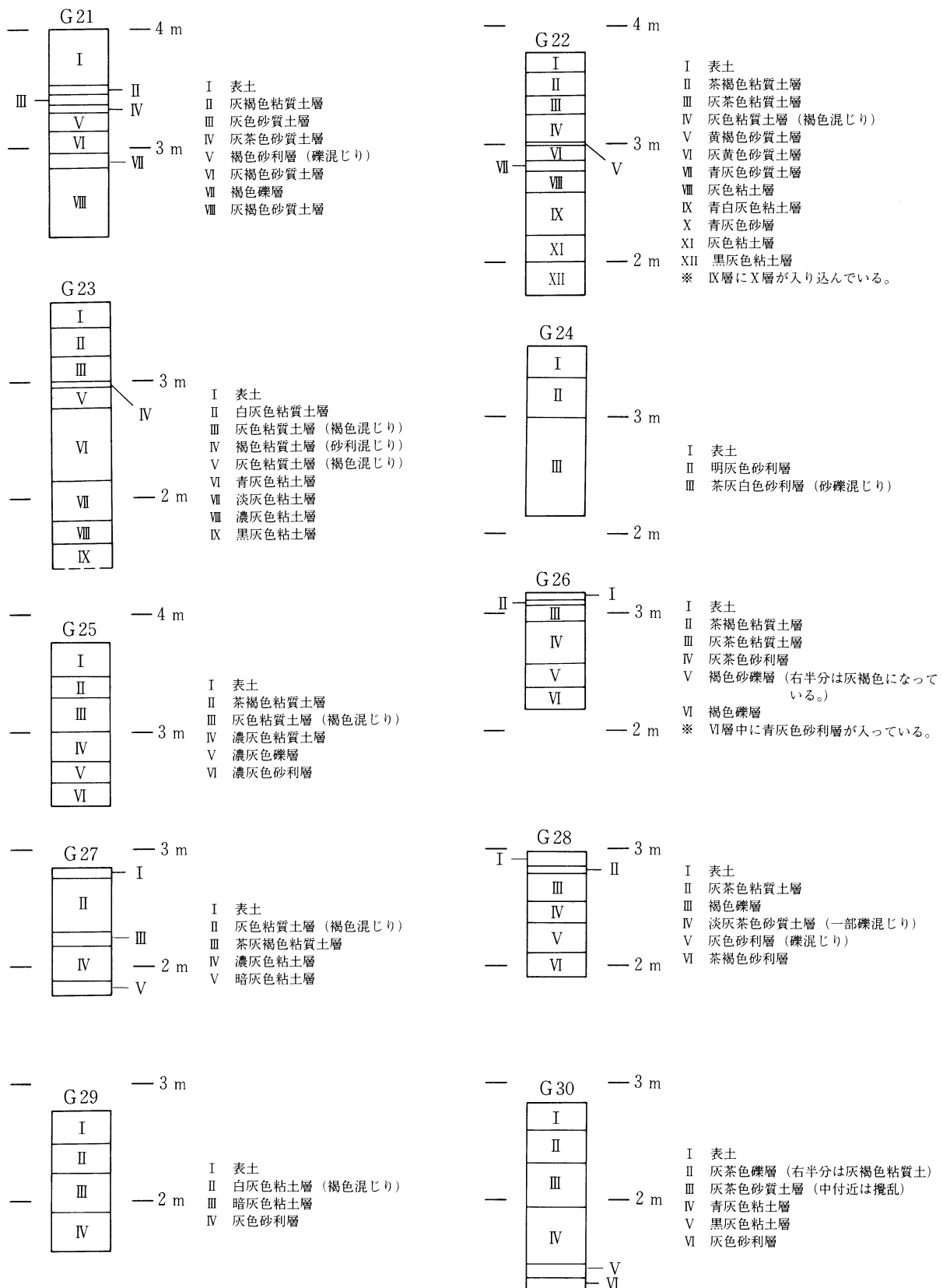


Fig. 8 G21～30セクション図 (S=1/50)

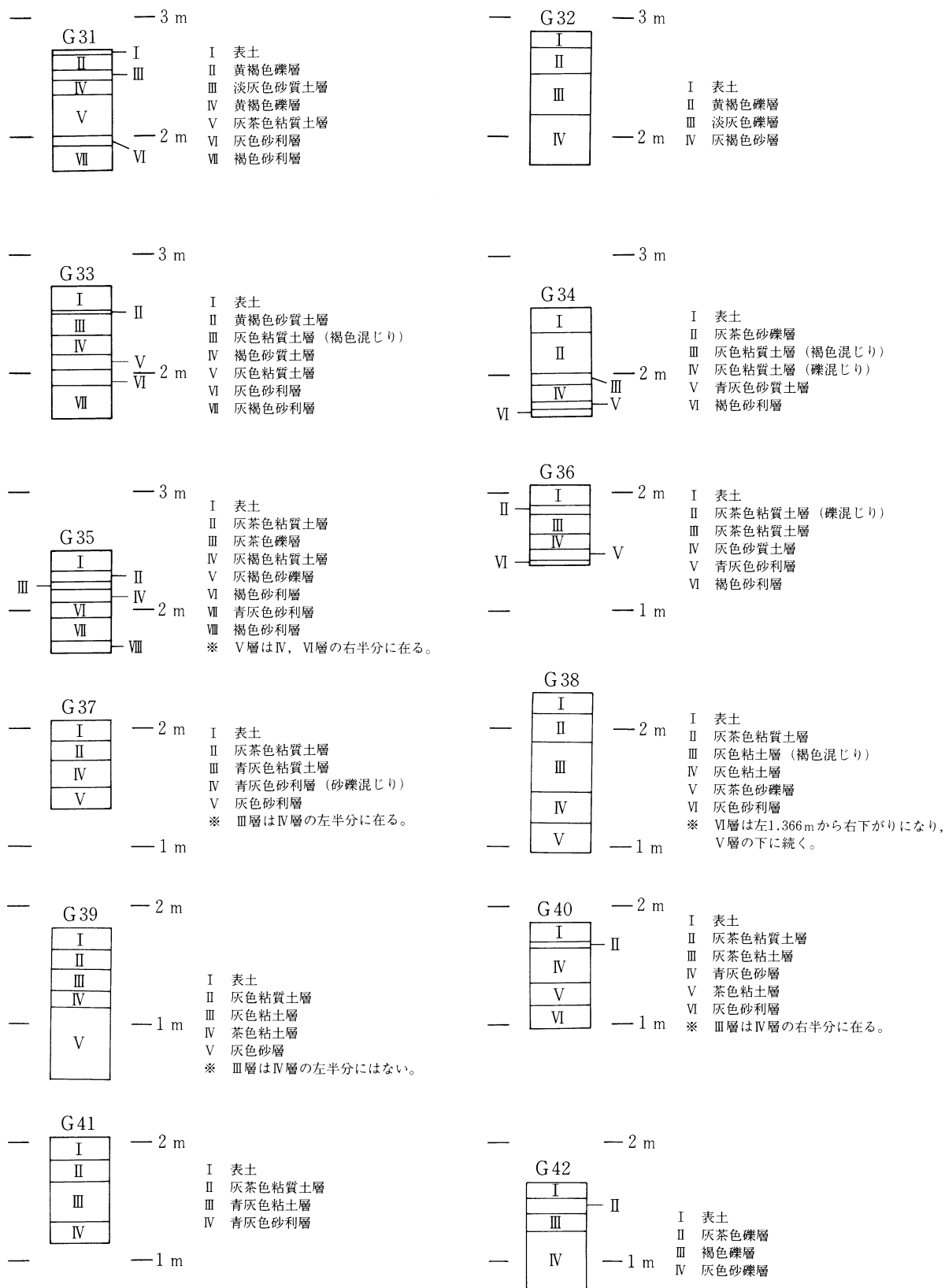


Fig. 9 G31~42セクション図 (S=1/50)



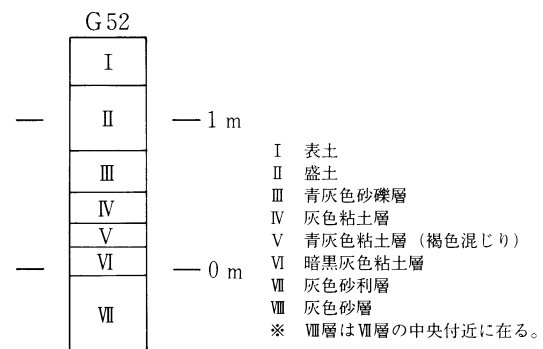
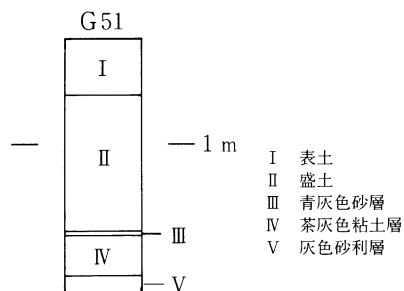
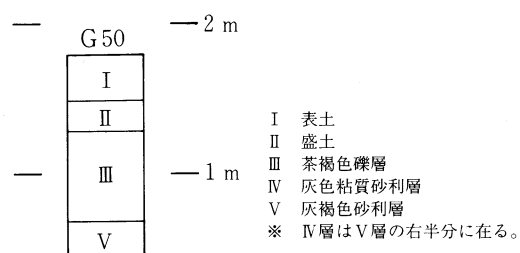
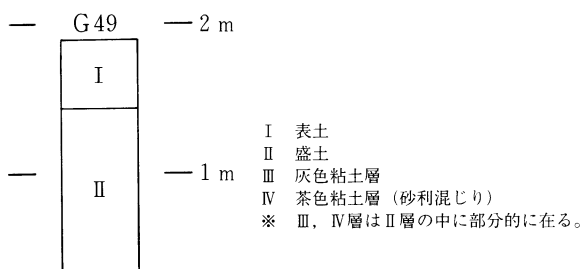
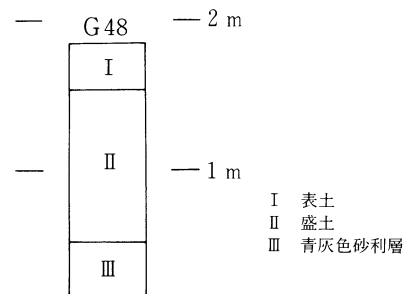
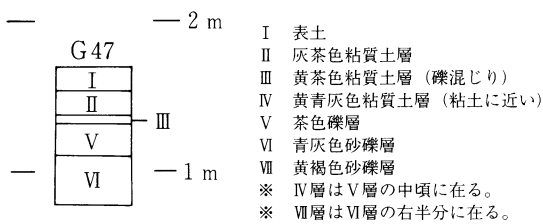
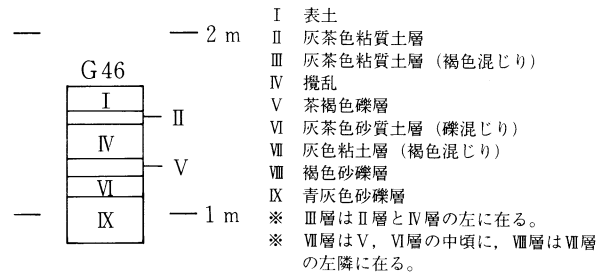
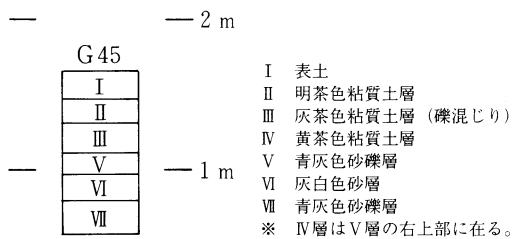
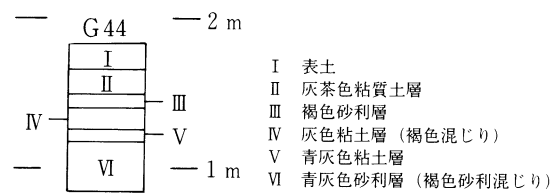
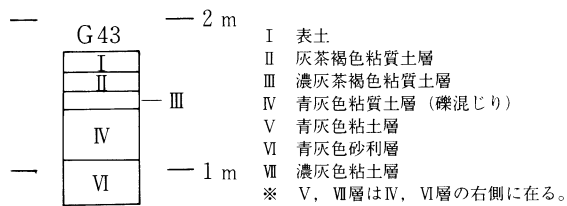


Fig. 10 G43~52セクション図 (S=1/50)

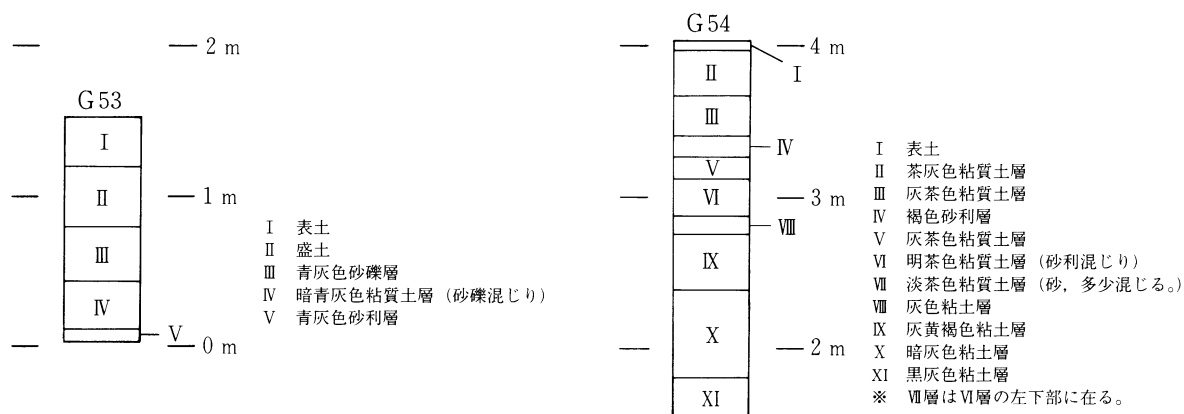


Fig. 11 G53・54セクション図 (S=1/50)

Tab. 1 遺物出土グリッド表

| グリッド<br>番 号 | 出 土 遺 物                                      |
|-------------|----------------------------------------------|
| G 1         | V・VI層－須恵器7点・瓦質土器2点・土師質土器18点・青磁1点・白磁1点        |
| G 2         | VI層－土師質土器11点・青磁1点                            |
| G 7         | IV層－瓦質土器1点・土師質土器4点                           |
| G 8         | IV層－須恵器1点・土師質土器2点                            |
| G 9         | SR-1 一土師器36点・鋤状木製品1点・杭9本・加工木片3点<br>X層－縄文土器1点 |
| G10         | IV層－土師質土器2点                                  |
| G18         | IV層－土師質土器1点                                  |
| G19         | IV層－須恵質土器1点・土師質土器4点・塗椀1点・切断木片1点<br>VI層－須恵器1点 |
| G21         | III層－杭1本<br>V層－土師質土器1点・青磁1点                  |
| G22         | VIII層－土師器1点・杭21本                             |
| G23         | V層－土師器11点・土師質土器2点<br>VIII層－土師器2点             |
| G24         | II層－土師質土器1点                                  |
| G27         | III層－土師質土器2点・杭24本                            |
| G29         | IV層－須恵器1点                                    |
| G31         | VI層－土師器1点                                    |
| G33         | III層－土師質土器1点                                 |
| G34         | III層－杭2本                                     |
| G38         | IV層－杭9本                                      |
| G39         | III層－土師質土器1点                                 |
| G43         | VIII層－須恵器2点                                  |
| G44         | V層－須恵器2点・須恵質土器1点・土師質土器1点                     |
| G46         | III層－須恵器1点<br>VI層－土師器1点<br>VIII層－須恵器1点       |
| G47         | VI層－土師質土器1点                                  |
| G49         | III層－土師質土器1点<br>IV層－土師器1点                    |
| G51         | IV層－曲物底板1点・杭2本                               |

Tab. 2 出土遺物計測表 1

| 図版番号 | グリッド | 層 位   | 器 種   | 口 径  | 器 高    | 底 径    | 特 徴         |
|------|------|-------|-------|------|--------|--------|-------------|
| 1    | G 7  | V層    | 土師質土器 | —    | 1.0    | 4.8    | 底部回転糸切り     |
| 2    | G 9  | V層    | 土師質土器 | —    | 2.2    | 4.8    | 底部輪高台       |
| 3    | G 9  | SR- 1 | 土師器甕  | 15.4 | 5.8    | —      | 内外面ナデ       |
| 4    | G 9  | SR- 1 | 土師器甕  | 17.2 | 5.6    | —      | 外面にタタキ目     |
| 5    | G 9  | SR- 1 | 土師器甕  | 17.0 | 9.4    | —      | 外面タタキ目ナデ消し  |
| 6    | G 9  | IX層   | 縄文土器  | —    | 3.0    | —      | 外面条痕有り      |
| 7    | G19  | VI層   | 須恵質土器 | 21.8 | 3.0    | —      | 鉢口縁部        |
| 8    | G21  | V層    | 青磁    | —    | 4.0    | 7.0    | 盤底部         |
| 9    | G28  | VI層   | 近世磁器  | 15.2 | 1.6    | —      | 皿口縁部        |
| 10   | G29  | IV層   | 須恵器甕  | 22.0 | 5.0    | —      | 玉縁状口縁       |
| 11   | G38  | III層  | 近世磁器  | —    | 4.6    | 5.2    | 碗底部         |
| 12   | G43  | VII層  | 須恵器甕  | 18.4 | 4.8    | —      | 外面カキ目内面同心円文 |
| 13   | G44  | V層    | 須恵質土器 | 5.0  | 1.5    | —      | 底部ベタ高台      |
| 14   | G44  | V層    | 土師質土器 | 6.8  | 1.4    | —      | 底部回転糸切り     |
| 15   | G46  | VII層  | 須恵器   | 11.2 | 2.8    | —      | 杯蓋          |
| 16   | G49  | IV層   | 土師器甕  | —    | 4.0    | —      | 底部丸底        |
| 図版番号 | グリッド | 層 位   | 器 種   | 全 長  | 全 幅    | 全 厚    | 特 徴         |
| 17   | G 9  | SR- 1 | 鋤状未製品 | 20.6 | 10.3   | 0.8    | ブナ科アカガシ（亜属） |
| 18   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 46.3 | 4.8    | —      | ブナ科スタジイ     |
| 19   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 44.9 | 5.0    | —      | ブナ科アカガシ（亜属） |
| 20   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 43.8 | 4.4    | —      | クスノキ科クスノキ   |
| 21   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 62.5 | 3.1    | —      | ハイノキ科ハイノキ   |
| 22   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 47.6 | 3.2    | —      | ミズキ科ミズキ     |
| 23   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 80.5 | 6.6    | —      |             |
| 24   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 22.4 | 3.3    | —      | ニレ科ムクノキ     |
| 25   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 19.1 | 3.7    | —      |             |
| 26   | G 9  | SR- 1 | 杭     | 17.3 | 3.1    | —      |             |
| 27   | G 9  | SR- 1 | 加工木片  | 11.7 | 4.6    | 2.7    |             |
| 28   | G 9  | SR- 1 | 加工木片  | 5.0  | 2.8    | 0.5    |             |
| 29   | G 9  | SR- 1 | 加工木片  | 5.2  | 3.1    | 1.2    |             |
| 30   | G19  | IV層   | 漆器椀   | —    | 4.0(底) | 8.2(高) | 内面に亀甲文有り    |
| 31   | G19  | V層    | 加工木片  | 6.5  | 5.3    | 0.7    |             |
| 35   | G22  | VIII層 | 杭     | 29.0 | 3.7    | —      |             |
| 36   | G22  | VII層  | 杭     | 33.7 | 5.7    | —      |             |
| 37   | G22  | VIII層 | 杭     | 38.0 | 4.2    | —      |             |
| 38   | G22  | VIII層 | 杭     | 32.0 | 4.2    | —      |             |
| 39   | G22  | VIII層 | 杭     | 27.0 | 4.1    | —      |             |

Tab. 2 出土遺物計測表 2

| 図版番号 | グリッド | 層 位 | 器 種 | 全 長  | 全 幅 | 全 厚 | 特 徴 |
|------|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 40   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 15.1 | 2.4 | —   |     |
| 41   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 11.0 | 2.5 | —   |     |
| 42   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 22.5 | 3.3 | —   |     |
| 43   | G22  | Ⅵ層  | 杭   | 16.2 | 3.2 | —   |     |
| 44   | G22  | Ⅵ層  | 杭   | 14.3 | 4.3 | —   |     |
| 45   | G22  | Ⅶ層  | 杭   | 26.9 | 5.5 | —   |     |
| 46   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 16.2 | 2.9 | —   |     |
| 47   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 18.6 | 3.7 | —   |     |
| 48   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 29.8 | 3.0 | —   |     |
| 49   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 9.5  | 1.7 | —   |     |
| 50   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 44.6 | 3.9 | —   |     |
| 51   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 42.8 | 4.0 | —   |     |
| 52   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 16.7 | 3.1 | —   |     |
| 53   | G22  | Ⅷ層  | 杭   | 20.1 | 2.3 | —   |     |
| 54   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 42.1 | 5.0 | —   |     |
| 55   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 44.6 | 4.8 | —   |     |
| 56   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 41.3 | 6.3 | —   |     |
| 57   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 41.5 | 3.9 | —   |     |
| 58   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 47.8 | 7.1 | —   |     |
| 59   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 20.2 | 4.1 | —   |     |
| 60   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 14.0 | 2.4 | —   |     |
| 61   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 26.9 | 2.7 | —   |     |
| 62   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 34.0 | 5.4 | —   |     |
| 63   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 36.7 | 4.8 | —   |     |
| 64   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 27.0 | 3.4 | —   |     |
| 65   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 8.9  | 3.0 | —   |     |
| 66   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 8.5  | 4.1 | —   |     |
| 67   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 15.8 | 4.3 | —   |     |
| 68   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 19.3 | 3.8 | —   |     |
| 69   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 17.2 | 4.2 | —   |     |
| 70   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 13.4 | 3.3 | —   |     |
| 71   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 12.6 | 3.6 | —   |     |
| 72   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 18.0 | 3.0 | —   |     |
| 73   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 16.2 | 2.9 | —   |     |
| 74   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 50.4 | 4.6 | —   |     |
| 75   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 21.4 | 2.8 | —   |     |
| 76   | G27  | Ⅲ層  | 杭   | 49.6 | 3.3 | —   |     |

Tab. 2 出土遺物計測表 3

| 図版番号 | グリッド | 層 位 | 器 種   | 全 長  | 全 幅 | 全 厚 | 特 徴   |
|------|------|-----|-------|------|-----|-----|-------|
| 77   | G 27 | Ⅲ層  | 板状加工木 | 45.0 | 6.6 | 2.2 |       |
| 78   | G 27 | Ⅲ層  | 加工木片  | 9.2  | 2.2 | 1.2 |       |
| 79   | G 34 | Ⅲ層  | 杭     | 45.0 | 2.5 | —   |       |
| 80   | G 34 | Ⅲ層  | 杭     | 33.0 | 3.8 | —   |       |
| 81   | G 38 | Ⅲ層  | 杭     | 20.3 | 4.0 | —   |       |
| 82   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 14.0 | 3.4 | —   |       |
| 83   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 14.4 | 3.9 | —   |       |
| 84   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 19.3 | 3.3 | —   |       |
| 85   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 8.9  | 4.0 | —   |       |
| 86   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 8.7  | 2.4 | —   |       |
| 87   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 26.5 | 2.5 | —   |       |
| 88   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 21.8 | 3.5 | —   |       |
| 89   | G 38 | Ⅳ層  | 杭     | 19.0 | 6.5 | —   |       |
| 90   | G 51 | Ⅳ層  | 杭     | 25.3 | 1.8 | —   |       |
| 91   | G 51 | Ⅳ層  | 杭     | 9.0  | 1.7 | —   |       |
| 92   | G 51 | Ⅳ層  | 曲物底板  | 19.3 | 5.7 | 0.8 | スギ科スギ |

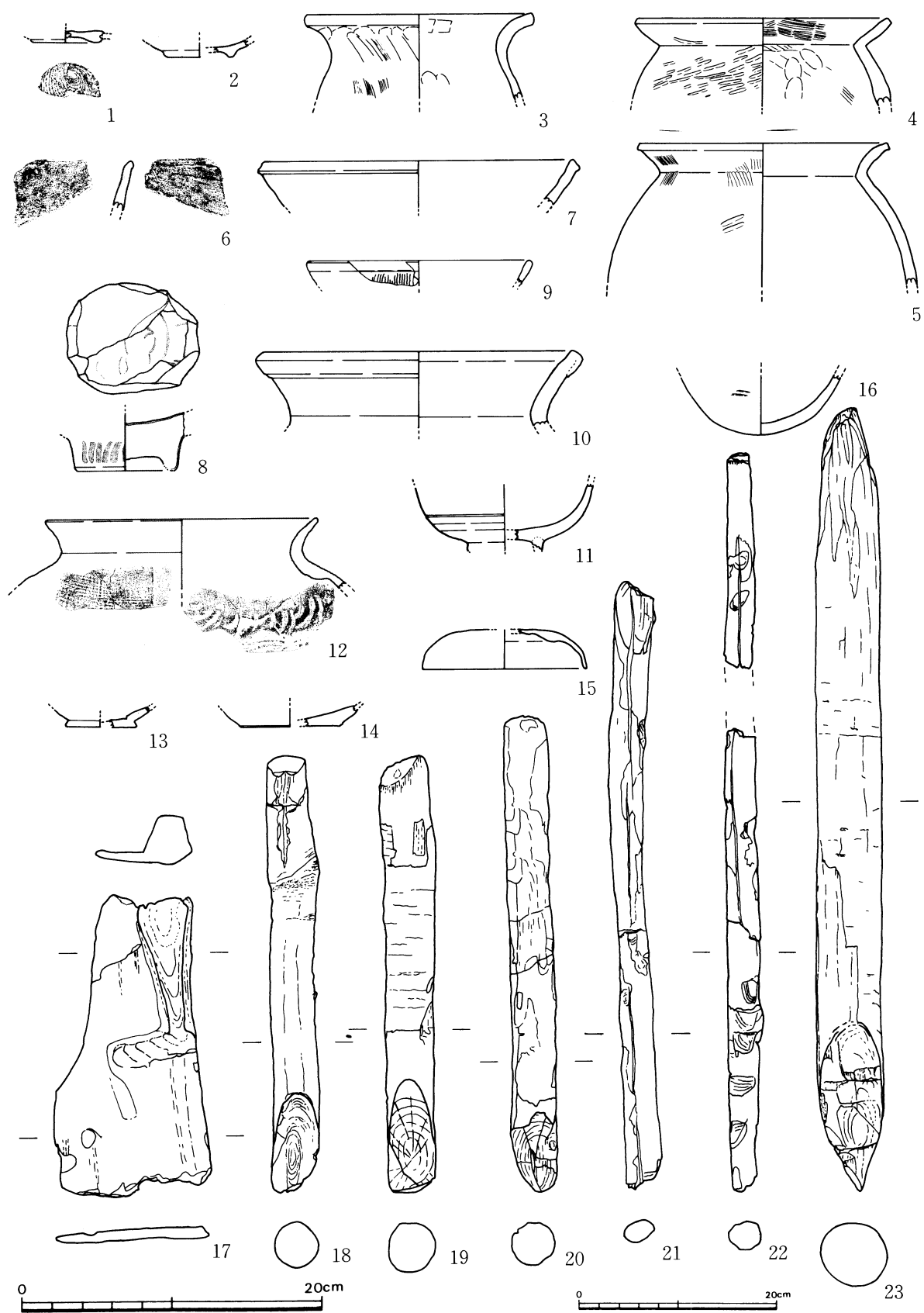


Fig. 12 G 7・9・19・21・28・29・38・43・44・46・49出土遺物

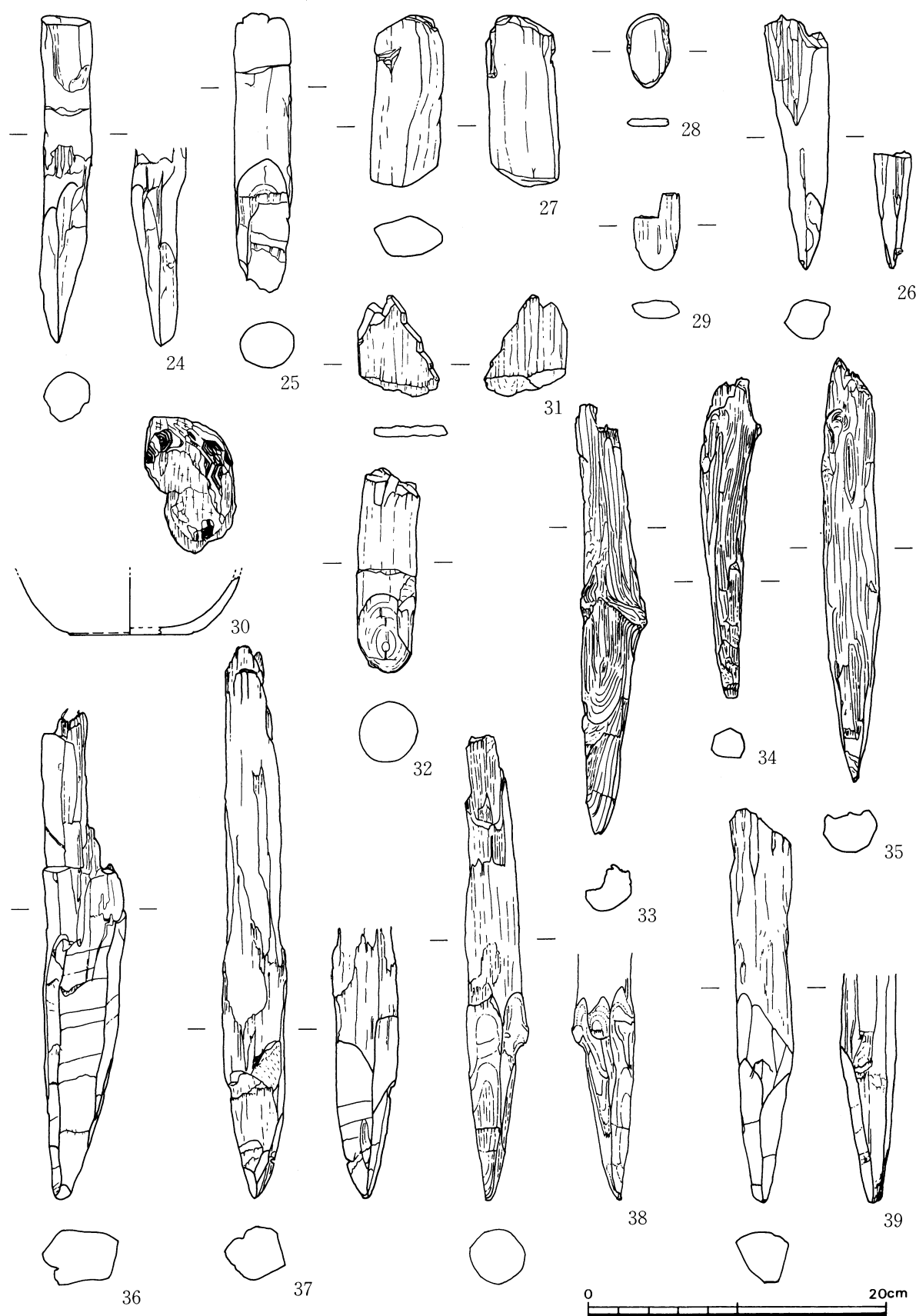


Fig. 13 G 9 · 19 · 21 · 22出土遺物

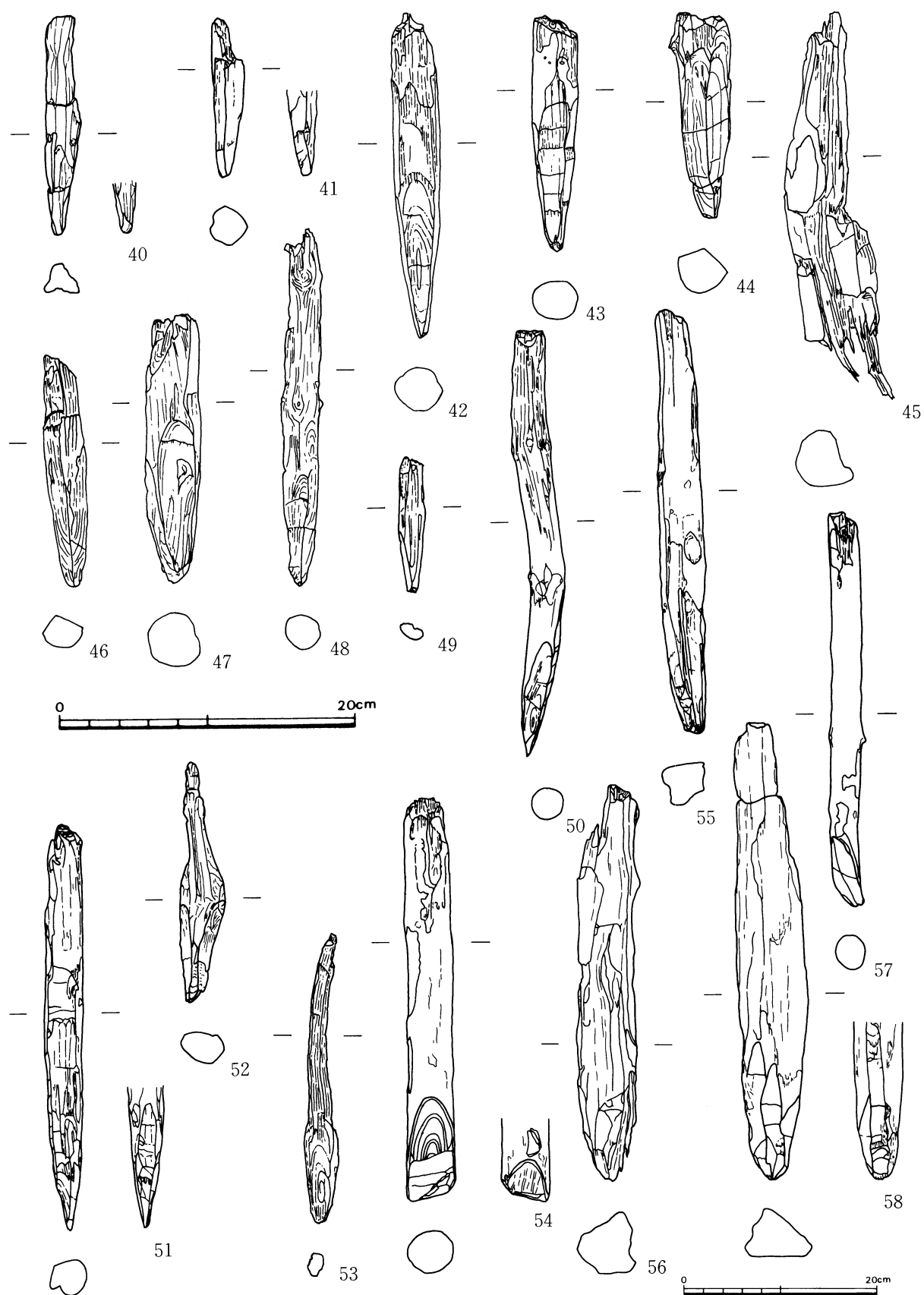


Fig. 14 G22・27出土遺物



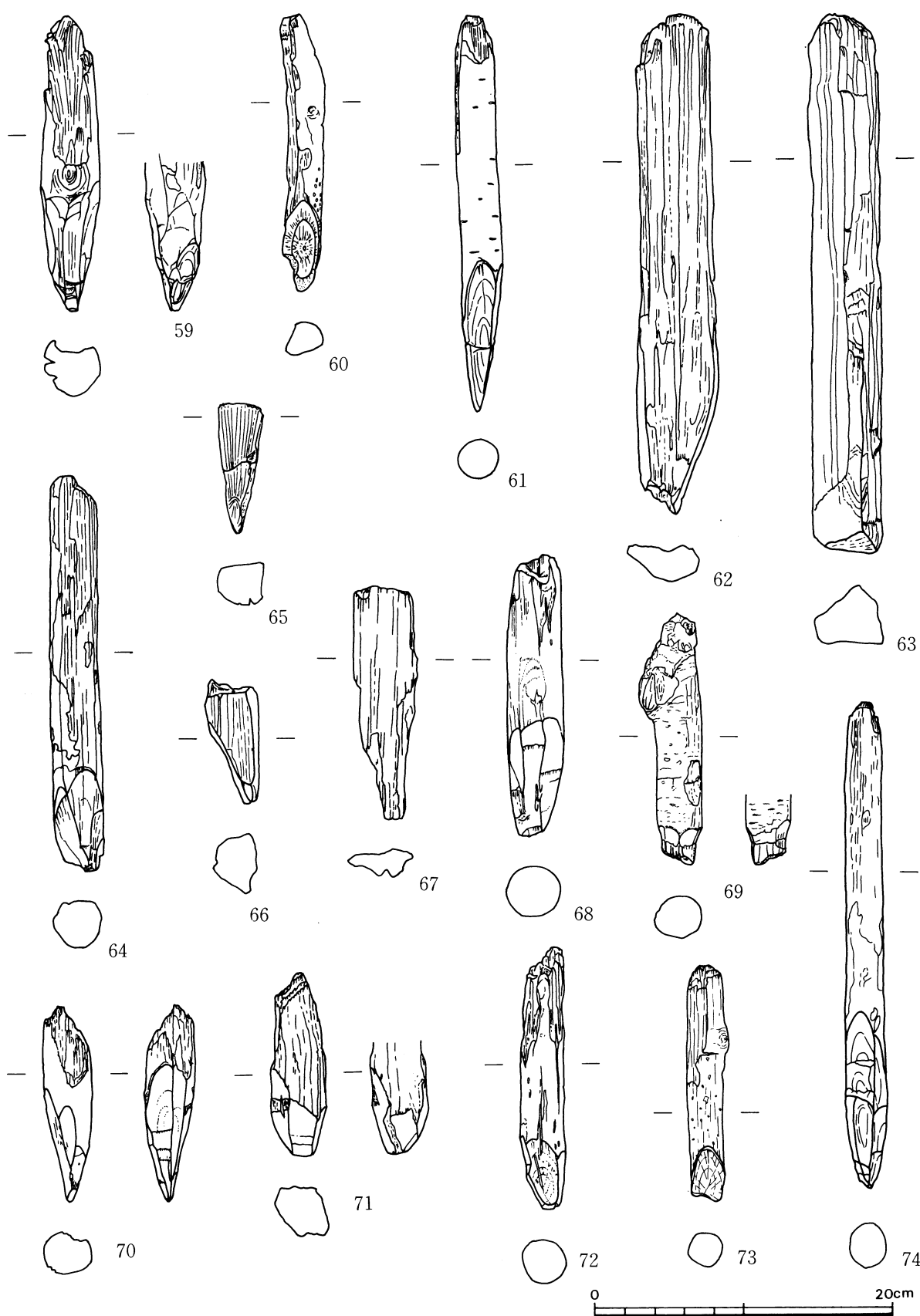


Fig. 15 G27出土遺物

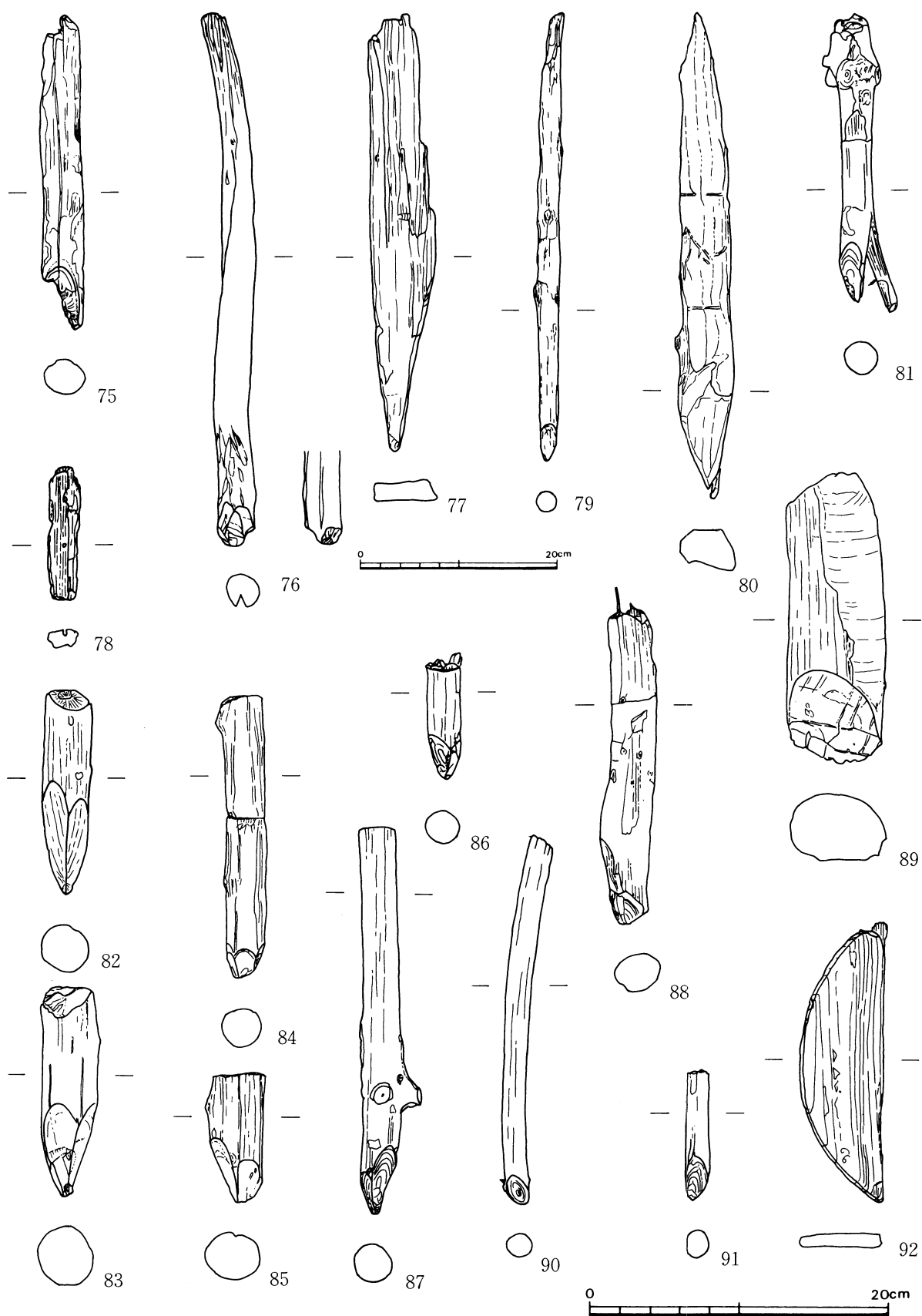


Fig. 16 G27 · 28 · 34 · 51出土遺物



# 写 真 图 版





調査区（Ⅰ区）全景



調査区（Ⅱ区）全景



調査状況（G 9）

## PL 2



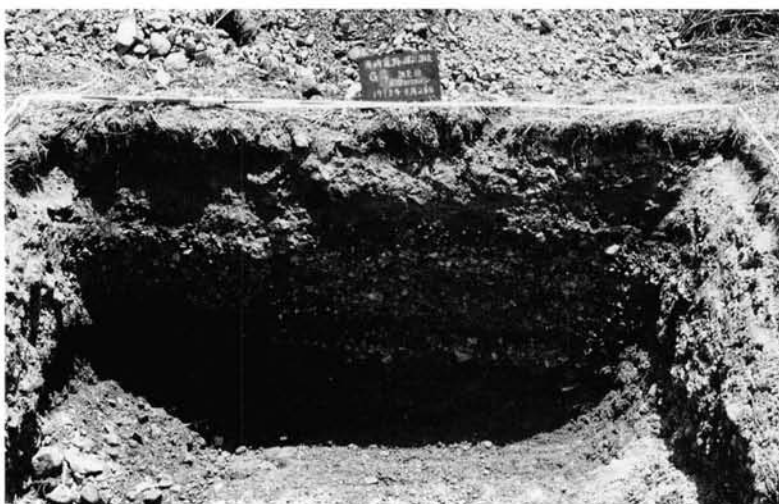
G 1



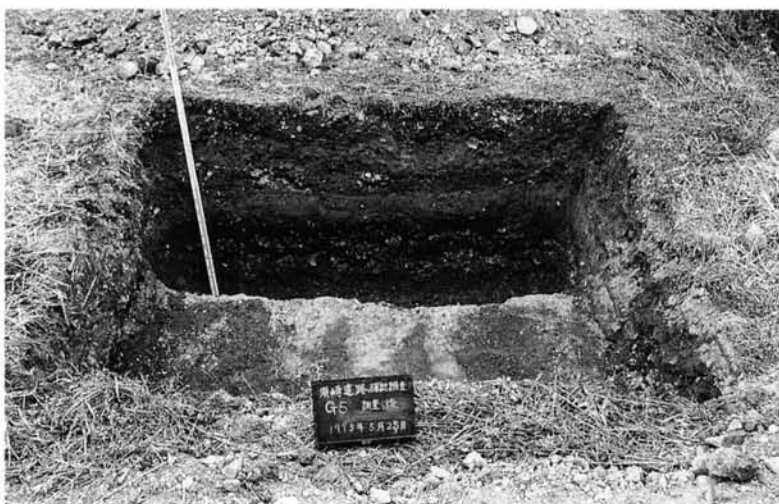
G 2



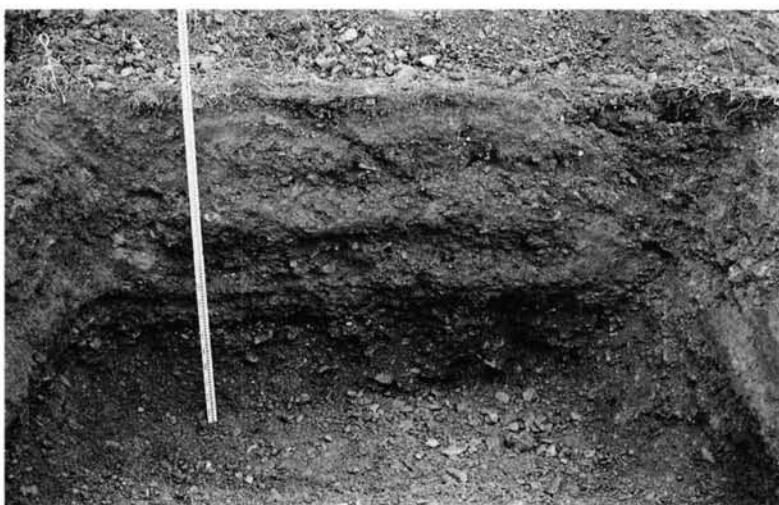
G 3



G 4



G 5



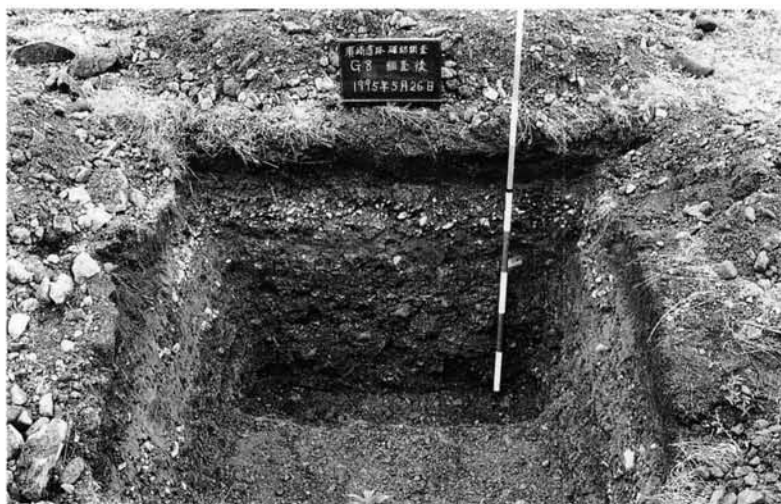
G 6



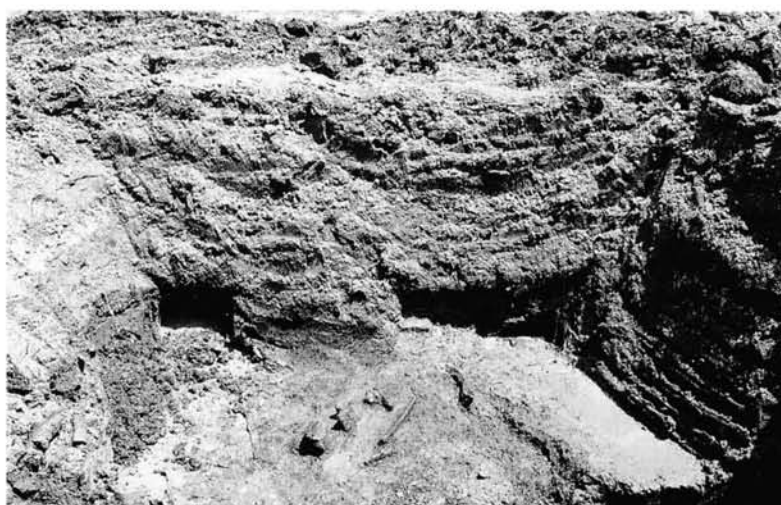
## PL 4



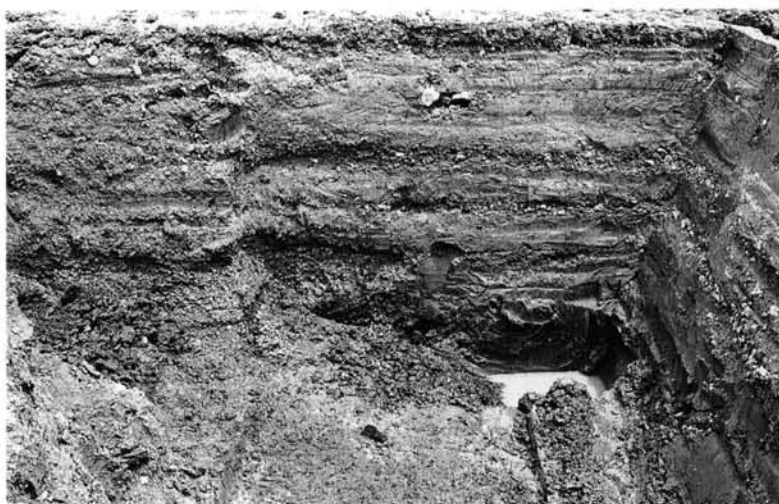
G 7



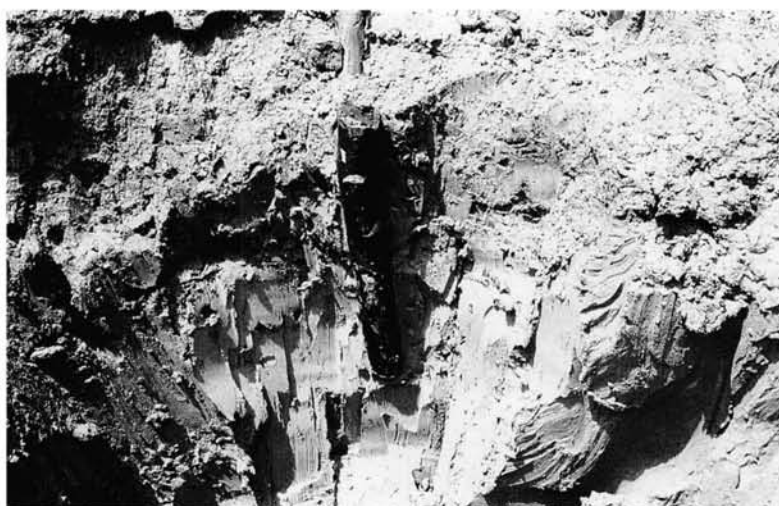
G 8



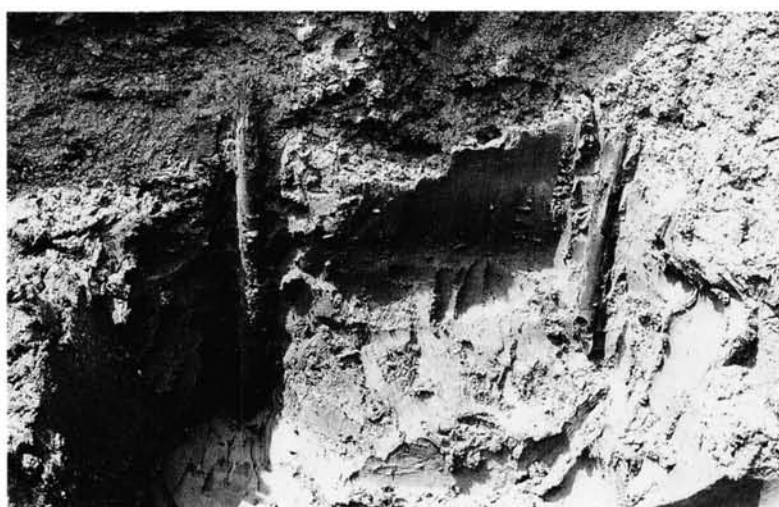
G 9



G 9 セクション



G 9 杭出土状態



G 9 杭出土状態

## PL 6



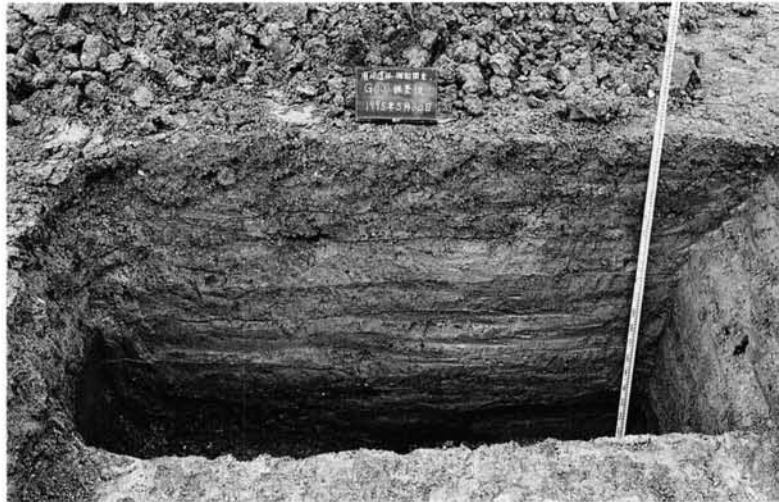
G 9 鋤状未製品



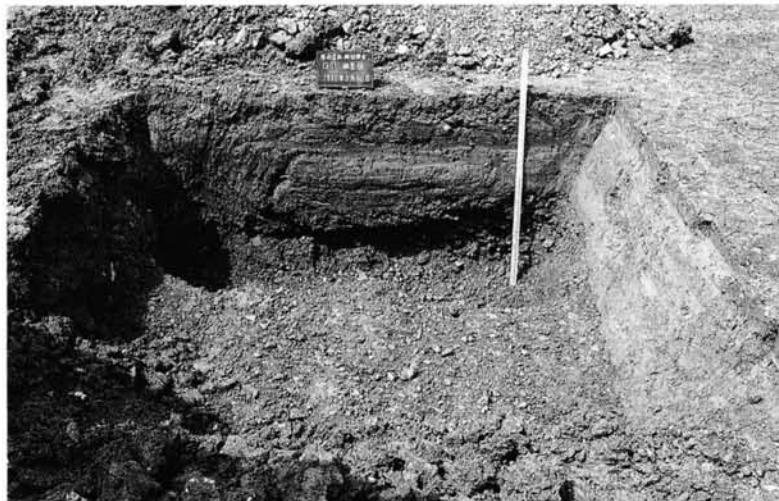
G 9 土師器



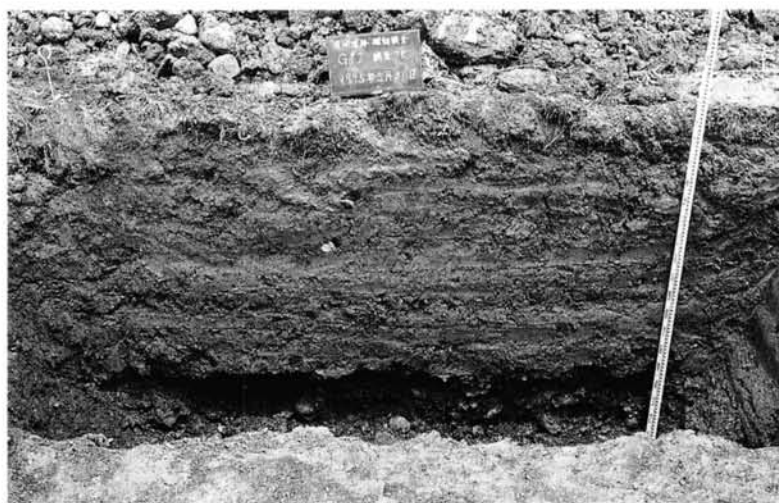
G 9 土師器



G10



G11



G12



PL 8



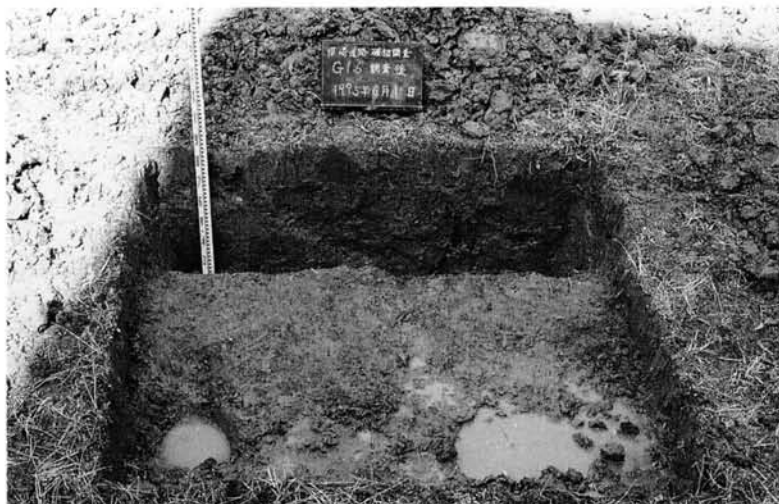
G13



G14



G15



G16



G17



G18

PL 10



G19



G20



G21



G22



G23



G24



PL 12



G25



G26



G27



G28

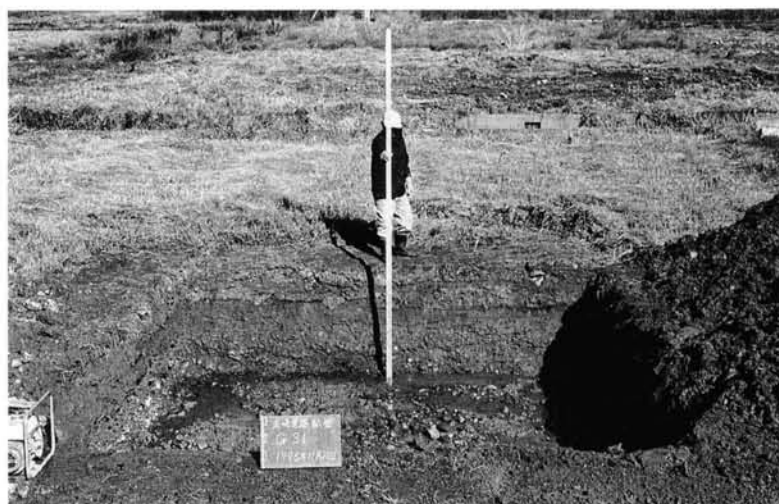


G29



G30

## PL 14



G31



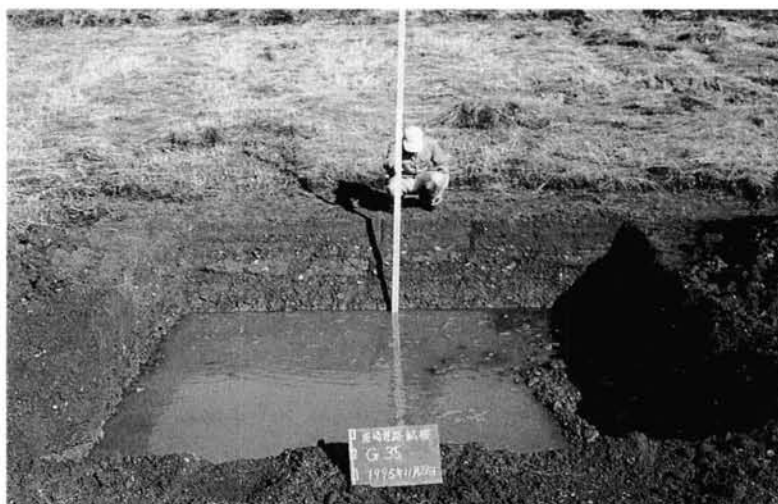
G32



G33



G34

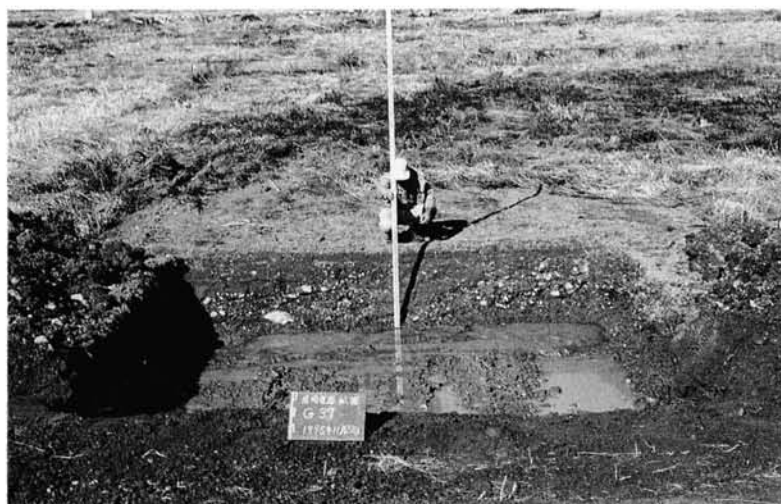


G35

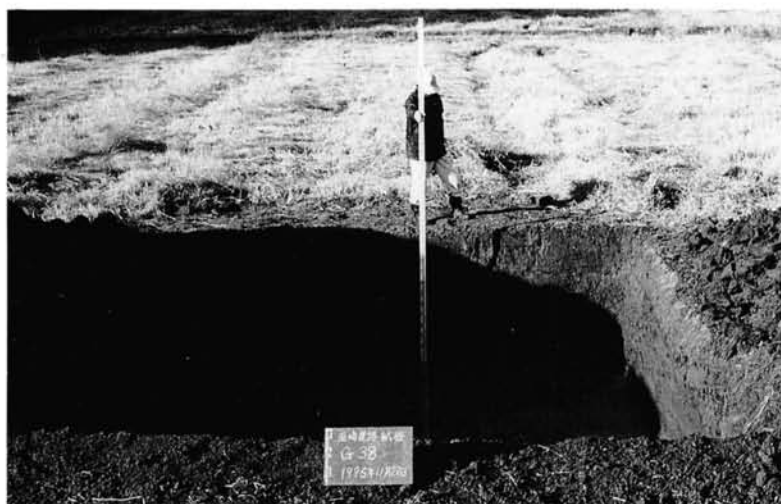


G36

PL 16



G37



G38



G39





G40



G41



G42

PL 18



G43



G44



G45



G46



G47



G48



PL 20



G49



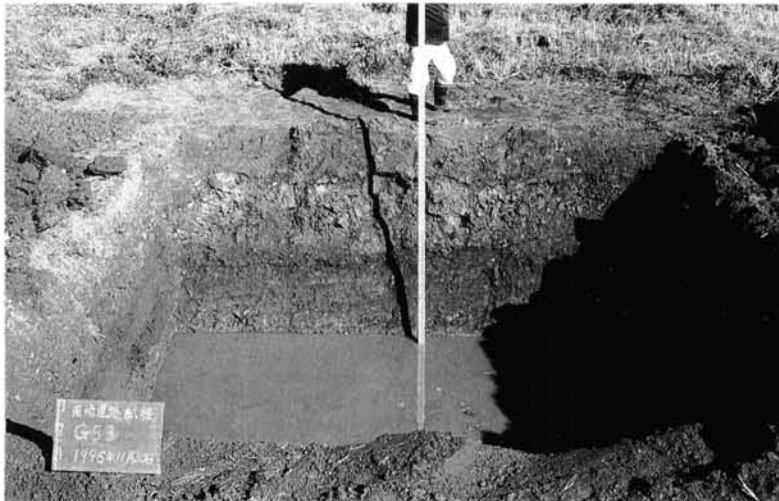
G50



G51



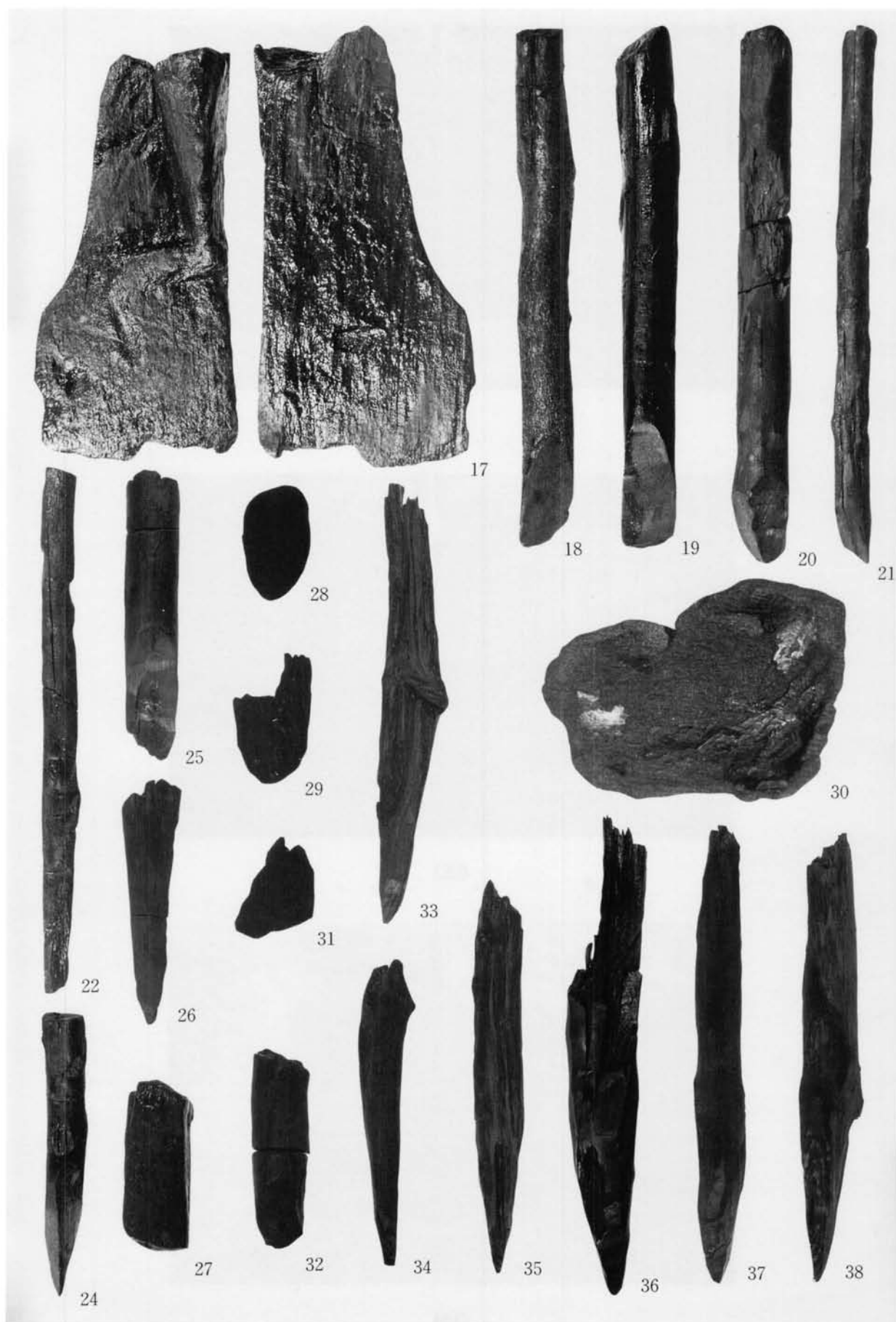
G52



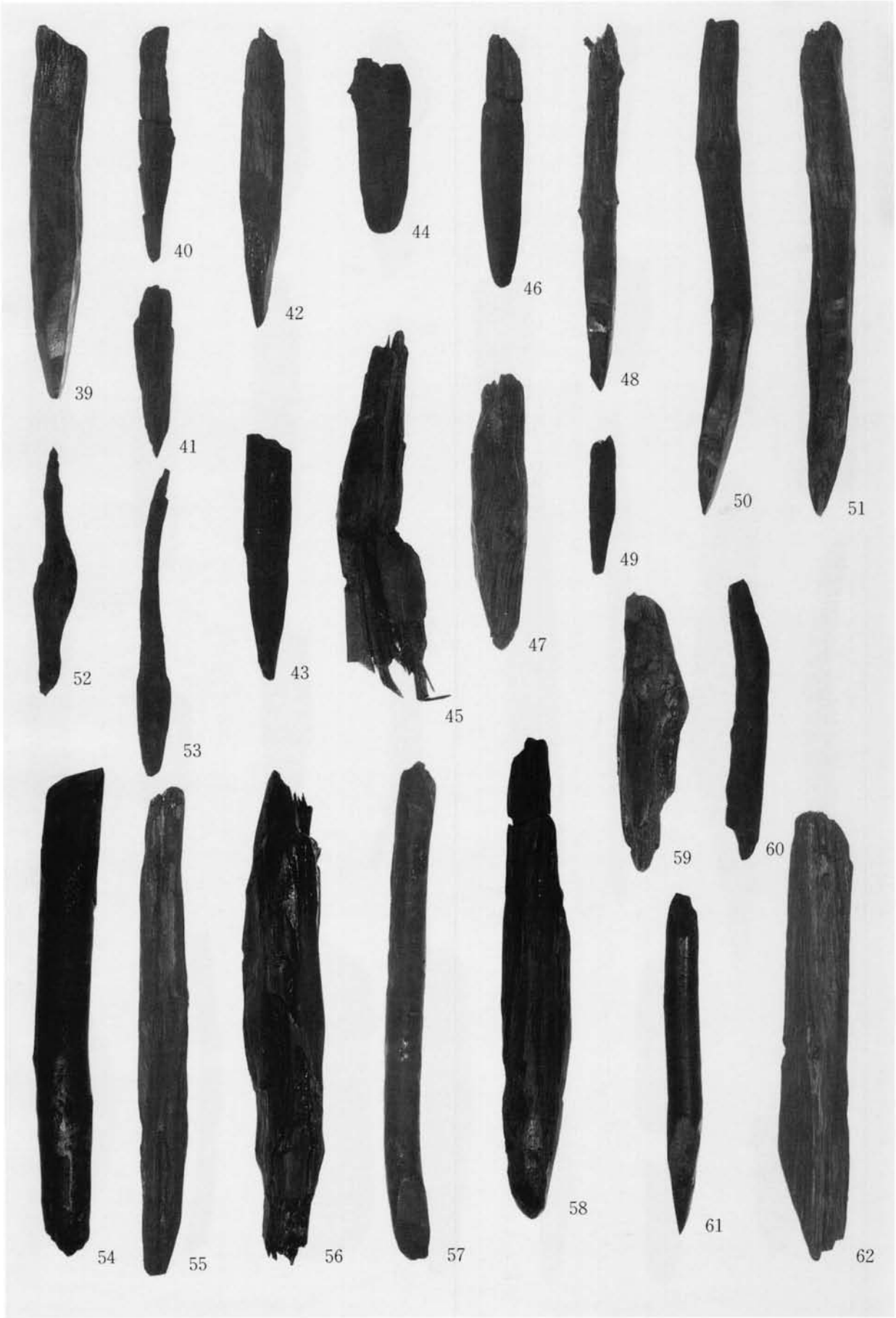
G53

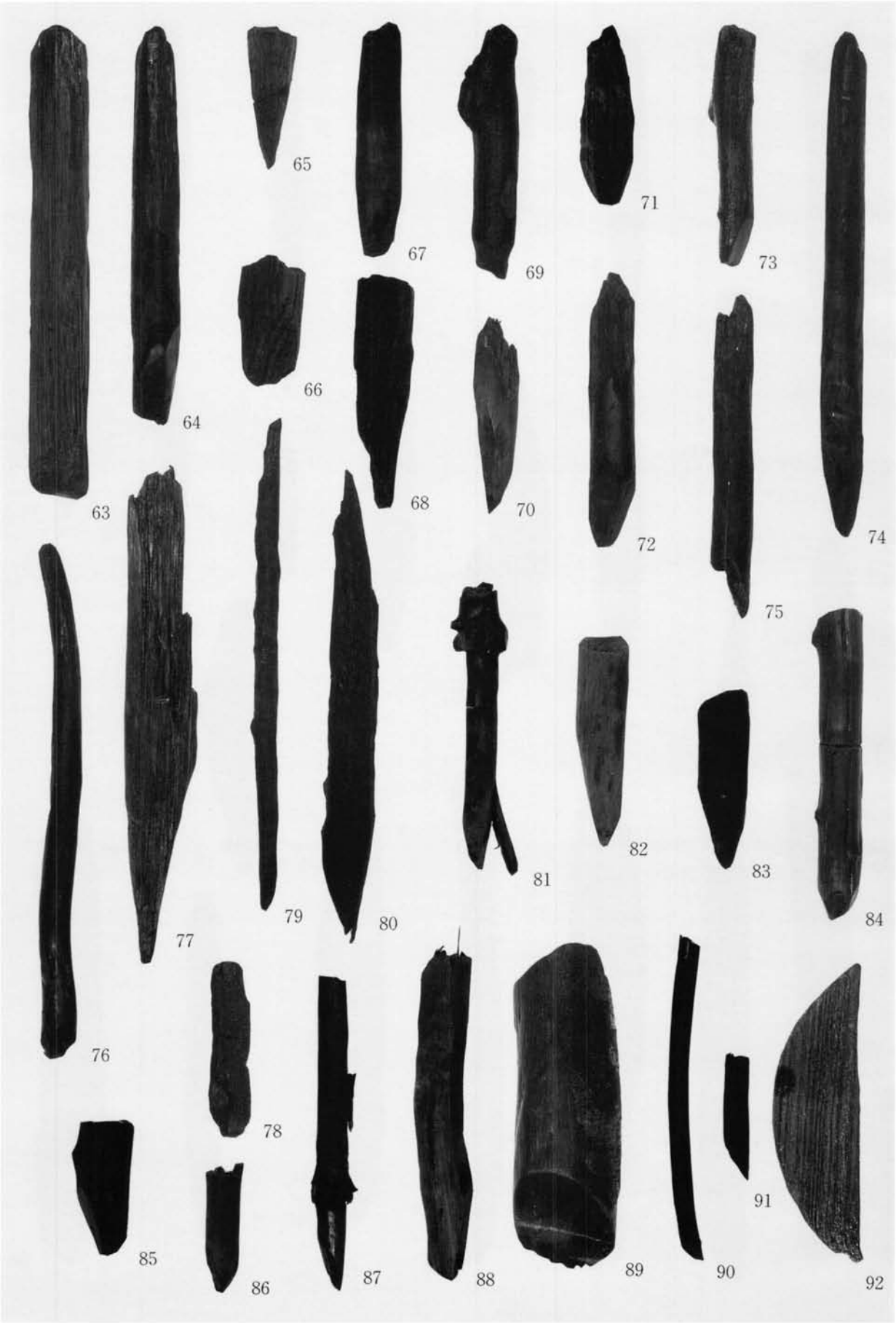


G54



出土遺物 1





出土遺物 3

## 報告書抄録

| ふ り が な                  | すさきどうろ あいのごうちく まいぞうぶんかざいかくにんちようさほうこくしょ   |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
|--------------------------|------------------------------------------|------------|------------|------------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 書 名                      | 須崎道路（吾井郷地区）埋蔵文化財確認調査報告書                  |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| 副 書 名                    |                                          |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| 巻 次                      |                                          |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| シ リ ー ズ 名                | 高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書                      |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| シ リ ー ズ 番 号              | 第26集                                     |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| 編 著 者 名                  | 森田尚宏・田坂京子                                |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| 編 集 機 関                  | 財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター                    |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| 所 在 地                    | 〒783 高知県南国市篠原南泉1437-1 TEL 0888-64-0671   |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| 発 行 年 月 日                | 西暦 1996年 2月29日                           |            |            |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| ふりがな<br>所収遺跡名            | ふりがな<br>所 在 地                            | コ ー ド      |            | 北緯<br>° ' "                  | 東経<br>° ' "        | 調査期間                                                                 | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因                           |
|                          |                                          | 市町村        | 遺跡番号       |                              |                    |                                                                      |                        |                                |
| すさきどうろかん<br>須崎道路関<br>連遺跡 | こうちけんすさきし<br>高知県須崎市<br>あいのごうこうだ<br>吾井郷神田 | 206        | ——         | 33度<br>25分<br>10秒            | 133度<br>18分<br>50秒 | 1995. 5 .22<br>}<br>1995. 6 . 2<br><br>1995.11. 9<br>}<br>1995.11.30 | 230<br><br><br>592     | 高規格道路<br>須崎道路建<br>設に伴う確<br>認調査 |
| 所収遺跡名                    | 種 別                                      | 主な時代       | 主 な 遺 構    | 主 な 遺 物                      |                    | 特 記 事 項                                                              |                        |                                |
| 須崎道路<br>関連遺跡             | 散布地                                      | 古墳時代<br>中世 | 自然流路<br>杭列 | 須恵器・土師器<br>土師質土器・青磁<br>鋤状木製品 |                    | 周辺部には古墳時<br>代の遺跡はない<br>が、古墳時代の流<br>路が検出され、集<br>落等の存在が考え<br>られる。      |                        |                                |

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第26集

須崎道路（吾井郷地区）  
埋蔵文化財確認調査報告書

1996年 2 月

編 集 (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター  
発 行 〒783 高知県南国市篠原南泉1437-1  
TEL 0888-64-0671

印 刷 西村 謄 写 堂